

愛知医科大学 学報



愛知医科大学バスロータリー完成記念テープカット
(関連記事17頁)

＝ 第146号 ＝

2017. 4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

平成29年度入学式	2
平成28年度卒業式	5
平成29年度予算大綱	10
就任ごあいさつ	14
バスロータリー完成	17
教授就任インタビュー	24
退職を迎えて	38
Smile ～スマイル～	51
海外研修派遣研修記	55
教育・研究最前線	62

平成29年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



平成29年度入学式が、平成29年4月4日（火）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

式は、学生サークル「HIAMU」による君が代斉唱に始まり、医学部115名、看護学部105名計220名の新入学生が紹介された後、新入学生を代表して看護学部の児玉菜々香さんから「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、佐藤啓二学長から告辞が、来賓の三宅養三理事長、櫻井敏医学部父兄後援会会長及び大輪芳裕医学部同窓会会長代理副理事長から祝辞がありました。

この後、医学部の久徳綾香さんから「愛知医科大学は、医学部と看護学部の2学部からなり、学生数は約千人と、規模としては大きな大学ではありませんが、その分、同級生、先輩・後輩との関係が密であり、とても良い人間関係を築くことができます。また、先生方の熱心なご指

導もこの大学の魅力の一つであり、両学部とも指導教員制がとられていますので、皆さんが学生生活で行き詰ったときや悩みにぶつかったとき、親身になって相談にのっていただけるものと思います。入学式を迎えられた皆さんは、今、希望に満ち溢れ、大きな期待の中にあることと思います。しかし、大学に入学することは決して到着点ではなく、むしろ出発点です。皆さんはこれからたくさんのことを学び、様々な経験を積み重ねていきます。国家試験に合格するのはもちろん、最終的には良き医療人となることを目標に新たな場所での第一歩を踏みだしてほしいと思います。」と歓迎の辞が述べられ、最後に「HIAMU」による大学歌の合唱があり、午前10時40分頃に式は終了しました。



宣誓を述べる児玉さん



久徳さんからの歓迎の辞

告 辞

学 長 佐 藤 啓 二



医学部115名、看護学部105名の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは今日からAll Aichi Idaiの仲間です。新しい出会いと学びに胸を躍らせていることと思います。

今日は、「医学の基礎知識」とされているものは膨大な量があるので、効率良く長期記憶に留めないといけないこと、基礎知識を多面的・多層的に解釈し、使える知識としておかなければならないことを話したいと思います。

1885年ドイツの心理学者であるエビングハウスは「忘却曲線」を示しました。無関係なアルファベットを提示して、覚えさせると、20分後に42%忘れ、1日後に74%忘れ、1週間後に77%忘れ、1ヵ月後に79%忘れるという結果になりました。そうですかと済ませてはいけません。1日を経過して残った記憶は、1週間後に88%残っ

ており、1ヵ月後に80%残っていることが分かります。20分で42%忘れるのに、1日を経過した記憶は、1ヵ月後も80%記憶が残るのは、おかしいと思いませんか。

1885年、つまり明治18年に、短期記憶と長期記憶のメカニズムが異なるということが示唆されていたこととなります。寄り道をしながら、このメカニズムについて、考えていきましょう。

「Hippo」で始まる言葉は何を考えますか。ギリシア語で「Hippo」は馬です。「Potamus」とは、河を意味するので、「Hippo-potamus」は河馬です。「Hippo-crates」もありました。「Cratos」は「power（力）」を意味しますので、「Hippo-crates」は、日本名：馬力さんかもしれません。医科系大学で重要なのは、「Hippo-campus」です。「Kampos」はギリシア神話に出てくる想像上の動物で、タツノオトシゴに似ていることから、海馬（かいば）と訳されるヒトの小指程度の場所です。海馬を損

傷した患者さんは短期記憶が全くできないことから、海馬は記憶の中核と考えられてきました。

脳には、1,000億個の神経細胞、いわゆるニューロンが存在しており、各ニューロンには、別のニューロンと結合するシナプスが数万存在すると言われています。数えきれない程のネットワークが形成されていることとなります。刺激受容体から入力された刺激は、ニューロンの膜電位を変化させ、電気的興奮として神経線維を通じてシナプス前部に届き、10ナノメートルのシナプス間隙で、アセチルコリンやノルアドレナリン等30種類にも及ぶ化学物質の受け渡しが行われます。刺激を伝える作動物質、刺激をブロックする遮断物質の両方があり、刺激の種類を選択と、刺激の強度の選択が行われることとなります。また、シナプス後部に到達した刺激の強度や条件によって、シナプス後部の状態が変わると言われています。極めて強い刺激が入った場合、弱い刺激でも頻回に繰り返された場合、種類の異なる刺激が同時に入力された場合など、シナプス後部では伝導効率が増強する「長期増強 (Long term potentiation)」と呼ばれる状態になると言われています。

長期増強状態にあるシナプスを経由した情報が次のニューロンの核に伝わると遺伝子転写が始まり、翻訳によって蛋白合成が始まります。新たに作られたタンパク質が、シナプス構造を変化させたり、新たなシナプスを形成することにより、長期記憶が形成されると言われています。シナプスにおいて長期増強を生じさせるために、授業を聞くだけでなく、ポイントを書き写したり、図を書いたり、頭で反芻するなど、異なった刺激を同時に入力することが重要です。

更に、記憶は不安定化しますが、同様の刺激が繰り返されると記憶の再固定化Reconsolidationが生じ、長期記憶が強固になっていくと言います。そのためにも、1日経過する前に復習をすることが重要なのです。小学校で学ぶ九九が良い例です。皆さんは「そんなにまでして長期記憶として残す必要はないのではないか。」と思うかもしれません。

祝 辞

理事長 三宅 養 三



愛知医科大学理事長の三宅です。この度は医学部、看護学部に晴れてご入学になられた学生諸君とご父兄に心からお喜び、お祝い申し上げます。立石池の美しい桜を背景に新病院がそびえ立つ今日の景色は、入学式の最高の舞台を提供してくれました。

愛知医科大学のある長久手市は、全国800以上もある都市の中で住むのに最も快適な町との評価を得ておりま

人類は、400万年前から500万年前にチンパンジーから別れたとされています。1万1千年前に農耕や牧畜が始まり、人口が増加し、18世紀の産業革命で更に人口が増加し、情報量が著しく増加しました。1999年までに蓄積した情報量は1.2エクサバイト(10¹⁸バイト、10億の10億倍バイト)と言われますが、その後わずか10年間で100倍に、20年間で3,000倍になると想定されています。

医学・生物学に限っては、米国の国立医学図書館の生物科学研究センターの出している医学・生物学情報検索サービスを「PubMed」と言いますが、2015年の1年間で出された論文数は360万編、紙にすると800mを超え、2050年までには成層圏をはるかに超える100kmに達すると言われています。更に、このようにして出された論文のEvidence生存期間は5.5年と言われており、常に必要な情報、正しい情報を選択し、修得し続けていかなければなりません。

基礎知識と呼ばれていますが、実は膨大な情報量があり、これを理解するためには、効率良く長期記憶として残す作業は不可欠となります。ただし、これは卒業までの第一ステップです。学士として卒業するには、第二のステップが求められます。これまで「知識量の多寡」が人の能力を判断する尺度とされてきました。しかし、情報化社会においては、知識量や記憶量では人を差別できなくなっており、「まねる」から派生した「まなび」の限界が指摘され、「能動的学びに裏打ちされた展開力」が求められるようになってきています。

自分が正しいと記憶していることが、グループ学修を通じて覆されることがあります。図書館で調べると、理解していた知識は表層的な結論であって、その奥には多層的に知識が整理され、積み重ねられていることが分かりますし、設問に解答することで理解できていなかったことが分かり、解説を読めば、その関連や意味が分かります。

医学の基礎知識を多面的に解釈し・多層的に分析しておくことによって、初めて使える知識になります。効率良く学び、幅広い理解を加えて、使える医師・看護師になり、明日の日本を支えて頂きたいと思えます。

す。また、市民の平均年齢が最も若く、出産率が日本一高い町として脚光を浴びております。昨年、石破茂前地方創生担当相が訪れ、長久手市は日本で最も成長が期待される都市と評価されました。最近では、イオンモール長久手が開業し、買い物も大変便利となりました。このような快適な町にある環境で、学園生活を送れる諸君は非常に恵まれていると思えます。まず、それを十分に意識してください。

愛知医科大学は1972年に建学され、まずは医学部ができ、2000年に看護学部が誕生しました。日本に全部で20

ある新設医科大学の一つであります。他の大部分の新設医科大学は、資産家のオーナーがその資金で構築したものでしたが、愛知医科大学は、太田元次初代理事長の私立医科大学創設にかけける並外れた情熱と意欲により建学され、必要な資金が皆無に近い状況下で実現されたものです。そのため、当初は多くの難題に立ち向かわなければなりませんでした。先人の大変なご努力により少しずつ愛知医科大学は発展してまいりました。

平成18年度からはキャンパスの再整備が始まり、多くの新しい施設が誕生しましたが、最大の目玉は新病院建設でした。職員全員の大変な努力により最高の病院が3年前に完成しました。また、今年度をもって、キャンパス再整備計画の大部分が完成し、皆さんは10年前には誰も想像もできなかったような新しいキャンパスを整えた大学に入学して頂きました。

今年ご入学の学生諸君の幸運は、初めから新しいキャンパスで、長久手という最も快適な場所で学生生活を送れることに加え、医学部では今年から学納金を値下げいたしました。これは、皆さんが最初です。一般論ですが、学納金を下げることでより優秀な学生が入学すると言われています。この一般論からすると、諸君は優秀なはずなのです。

更に、今年ご入学の皆さんが恵まれていることは、本学がこの4月から本格的に教育カリキュラムの転換を図り、学生の主体的な学習の充実を目指すことを強化したことであります。本学の医学教育を国際基準に合致した

ものとするため、平成31年を目指し、改革をスタート致します。教育のリーダーとして、この4月からは医学教育分野の日本のリーダーであられる伴信太郎先生を医学教育センター長としてお招きし、改革を進めて参ります。学生の皆さん、今述べましたように今年の新入生は本当に幸運で恵まれています。ところで「ノブレス・オブリージュ」という言葉を知っていますか。19世紀のフランス貴族に与えられた教訓ですが、「優遇されるものにはそれに伴う義務・責任がある」という意味です。

医師一人を養成するのに約1億円の費用がいられていると言われています。諸君は、高額な授業料を両親や国の税金から支給されており、また、最高の環境でよい指導者の下で学園生活を享受できるのです。その代わり、今日から果たすべき大きな義務と責任を負うのです。この義務と責任を果たすためには、良い医療人を目指してハングリー精神を持ち、自立して自分から貪欲に愛知医大から学べるものを吸収しようとする心構えを持つことです。

大学生になったのです。高校生とは違い、自分で将来の志を持って、それを達成するにはどのような大学生活を送るべきかを独自に考えてください。学生時代に良い医療人になるための感性を育成してください。環境も舞台も役者も揃った愛知医科大学では、皆さんがやる気さえあれば何でも可能となる時代となりました。医学部、看護学部の新入生の皆さま、どうか大いに充実した大学生活を送ってください。もう一度、おめでとうございます。

大学院入学式

平成29年4月4日（火）午前9時20分から大学本館701会議室において、平成29年度愛知医科大学大学院入学式が挙行されました。【写真】

式は、看護学研究科修士課程12名、医学研究科博士課程38名の計50名の新入学生が紹介された後、新入学生を代表して医学研究科の友杉俊英さんから「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、佐藤学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。



平成28年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



平成28年度卒業証書・学位記授与式が、平成28年3月4日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにておいて挙行されました。【写真】

告 辞

学 長 佐 藤 啓 二



医学部100名、看護学部106名の皆さん、人生の大きな節目である卒業の日が来ました。

皆さんが勝ち得たものですが、多くの支えがなくては迎えられなかつた日でもあります。

皆さんは明日から「広い意味の医学」を通じて社会とつながります。そのスタートに際して、医学が及んでいる範囲を、スケール感として理解してもらいたいと思います。

皆さんは明日から「広い意味の医学」を通じて社会とつながります。そのスタートに際して、医学が及んでいる範囲を、スケール感として理解してもらいたいと思います。

私たちの基準は身長である「メートル」です。10億のステップと言います。10億は10の9乗で、10の3乗毎に名前が付けられています。10億のステップを上の方から始めましょう。10の3乗は「キロ」、10の6乗は「メガ」、10の9乗は「ギガ」です。

10億のステップの1段目、1ギガメートルは月の周回軌道の大きさです。10億のステップを2段上ると、10の18乗エクサメートルと言います。これは天の川銀河のサイズと言われています。更に10億のステップを3段上ると、10の27乗メートルになりますが、名前が無く、宇宙のサイズと言われています。天の川銀河が回転し、太陽系も回転し、地球も回転していますので、位置エネルギーが全て運動エネルギーに変換されており、いわゆる無重力状態となっています。

このような宇宙で生活をするとなると、骨粗しょう症患者の10倍の速度で骨のミネラルが失われ、筋肉は寝たきりの人の2倍の速さで失われます。地上で浴びる自然放射線の半年分を1日で浴びてしまう等が生じます。これらの変化を予防し、対処するために医学的研究開発が求められています。

式は、君が代斉唱に始まり、佐藤啓二学長から医学部100名、看護学部106名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。

続いて、佐藤学長から告辞があり、来賓の三宅養三理事長、櫻井敏医学部父兄後援会会長及び小出龍郎医学部同窓会会長から祝辞がありました。この後、在学生を代表して看護学部3学年次生の渡辺明里さんから送辞が、卒業生を代表して医学部の堀田奈見さんから答辞が述べられ、卒業記念品の贈呈が行われ、午前11時20分頃に式は終了しました。

さて、日本で作られたスーパーコンピューター「京」の演算処理速度は、10億のステップを1段上った1ギガフロップスの更に7乗倍、10の16乗倍である10ペタフロップスに到達しています。

今世界は更に100倍、つまり10億のステップを2段上った10の18乗であるエクサスケールコンピューティングの開発競争が行われています。これにより太陽光発電ももっと効率良くなり、熱核融合発電も可能となる等、エネルギー問題が解決し、働かなくても良い「不労」が実現するのではないかと想像されています。エクサスケールコンピューティングの技術を握った国が世界の覇権を持つと言われており、各国血眼になっているわけです。

さて、10億のステップを下りましょう。10の3乗分の1はミリ、10の6乗分の1はマイクロ、10の9乗分の1、つまり10億のステップを1段下ったところがナノテクノロジーの世界です。電子顕微鏡の解像範囲は1ナノメートルです。遺伝子操作のDNAサイズは1ナノメートルです。

PETと言っているPositron Emission Tomographyは、グルコースに18Fを付けたものを静脈注射し、18Fより陽電子が放出され電子と対形成をしてエネルギーが光子となり、ガンマ線として放出されるのを見えています。このガンマ線の波長は100分の1ナノメートルです。

中性子を用いてがん細胞を攻撃する中性子捕捉療法が開発されていますが、この中性子のスケールは10の-15乗、フェムトメートルです。10億のステップを2段下ると、10のマイナス18乗、アトメートルと言いますが、これは素粒子のサイズになります。

現在の医学は、10億のステップを1.5段下ったフェムトメートルの中性子を操作し、10億のステップを1.5段上った10ペタフロップスの演算処理能力を有するスーパ

ーコンピューター「京」を利用し、10億のステップを1段上ったギガメートルの世界に、宇宙航空医学が活躍しています。

10年後には、10倍ではなくもっと広がっていることと思います。皆さんの働く場所、研究する分野は限りなく広いと言えます。楽しみな世界が待っています。

さて、最後に中国のことわざを付け加えたいと思います。

祝 辞

理事長 三宅 養三



本日は医学部並びに看護学部の学生生活を無事終了され、ここに卒業式を迎えられた学生諸君、それにご父兄の皆さまに、理事長として心からお祝い申し上げます。医学部と看護学部の諸君は在学中に古い大学病院が新しい病院に代わりキャンパスの再整備が竣工し、新しい大学の息吹を十分に感じられたことと思います。色々な思い出の残る学生生活もこれで終わりです。さて、これからは人の命を扱うプロとして歩むスタートラインに立つわけです。

私は、50年近い大学人としての経験を振り返って感じることは、プロになっての最初の5年が一番大切であることを実感しております。最初の5年を一生懸命頑張らなかった人で、その後大成した例を思い出せません。頑張ればすべて大成するわけではありませんが、大成するには最初に頑張ることが絶対条件なのです。現在の日本の医療、医学、看護学には多くの問題点が浮上していますが、現状の問題を解決するためには諸君の若い力が絶対に必要です。

本日ご卒業される医学部の学生の多くが愛知医科大学へ入学されたのは今から6年前の2011年4月6日でした。東日本大震災から26日後のことです。この日の愛知県は快晴で、愛知医科大学の立石池周辺の桜は満開でありAB病棟を背景にまさに春爛漫の絶景の舞台での入学式でした。入学式の朝、私は本学のあまりの美しさと東北の弁舌尽くしがたい悲惨な光景が脳裏を交差し、入学式の祝辞をかつてないほど熱を込めた内容としたことを鮮明に記憶しております。

その時の祝辞をもう一度要約します。「現在東北地方では多くの学徒が家や両親を失い、露頭に迷ったり見も知らない他人の家に引き取られたりした状態と聞いていますが、その若者たちの評判は非常にまじめで礼儀正しく、悲しさに耐えながらも必死に生きている姿は昔から培われた日本人魂の原点を見た思いがするとの論説もありました。また、このような大惨事の時にこそ、国民性

「一時間の幸せを得るには『昼寝』をすれば良い」

「一日の幸せを得るには『釣り』をすれば良い」

「一年の幸せを得るには『富を継承』すれば良い」

「一生の幸せを得るには『人助け』をすれば良い」

皆さんは一生の幸せを得ることができる職業に就くことができます。支えてくれた家族や友人に感謝を忘れず、All Aichi Idaiのメンバーであることに誇りを持ち、実りある人生を歩んでください。

改めて卒業おめでとう。これをもって学長告辞とします。

が現れ、パニック状態が起こらず、人々が整然と並んで配給食を待つ姿はTVで放映され世界を驚かせたものです。今日ここにおられる入学生の方々は、全く別世界の美しい環境の中で入学式を迎えられたことをとても幸福な状況にあると実感されているかもしれませんが、これはとんでもない話です。天は諸君に重い責任と使命を与えたのです。それは、これからの6年間は良い医療人になるために最大の努力をなささいという天命です。良い医療人になるとは、勉強ばかりすることを意味しません。医療は人間学ですから、幅広い教養と感性を磨く努力も必要です。しかし、このような天から与えられた責任と使命を携えながら、留年したり国家試験に不合格になるようなことが生じたら、これは天に対する背信行為であると思います。」

このような祝辞を述べ、私は6年間密かにこの学年を見守っておりました。しかし、残念なことにこの学年は多くの留年者を出してしまいました。国家試験の合格発表はまだ先になりますが、あまり期待できないとの評価があります。あの理事長祝辞は、一体何だったのだろうかと思つたことと自虐の念に駆られたこともありました。

しかし、やっぱり卒業生の皆さんはあの災害のことをよく覚えていてくださいました。卒業生から寄贈された記念品が高価な「かまどベンチ」5台でした。「かまどベンチ」とは、平常時にはベンチとして使用し、災害時には「かまど」として炊き出し等に使用する防災用品で、素晴らしい寄贈に感激いたしました。更にこの学年に優秀な学生が相当数いたことも事実ですし、やっぱりこの学年は最終的には素晴らしい人材を多数生み出したと言われ、理事長を見返すような学年になってほしいと期待しております。

看護学部の今年の卒業生は、非常に優秀と聞いております。多くの卒業生が大学に残り、いま大きな問題となっている看護学部の教官不足に対して将来教官の道を歩む人材が一人でも多く育成されることを切に願って、祝辞とさせていただきます。

送 辞

在学生 渡辺明里さん



長く続いた冬の寒さもようやく遠のき、春めいた暖かな日々の到来が感じられる季節となりました。この良き日に、ご卒業されます皆さま方に、在校生一同、心よりお祝い申し

上げます。

今日ここに晴れの日を迎えられましたのも、先輩方をあたたかく支えられてきたご家族の深い愛情や、先生方の熱心なご指導はもちろん、皆さまの日々の努力が実を結んだ結果であると思います。

愛知医科大学で過ごされた日々はいかがだったでしょうか。振り返ると語り尽くせない程の思い出が溢れてくることと思います。勉学のみならず、クラブ活動、実習などを通して、日々新たな学びや発見、そして何より多くの出会いがあったと思います。その中で先輩方は、かけがえのない命の尊さを改めて胸に刻み、医療の道を志した時の夢を、また新たなものにされたことと思います。そして今、それぞれの夢と希望を胸に、新しいステージの第一歩を踏み出されようとしています。

この先進まれる道は、決して平坦なものではなく、幾多の困難や分岐点が待ち受けていることと思います。しかし、そのときには本学でいつも支えて下さった先生方や、実習で出会ったたくさんの方々、共に支え合った仲間のことを思い出してください。本学で培われた、知識や技術、精神力、そして医療人としての志を糧に、困難を乗り越え、多くの人々の支えとなる心温かい信頼される医療者になれると確信いたしております。私たち在校生は、新たな道への第一歩を力強く踏み出される先輩方の姿をお手本とさせて頂き、皆さまが築き、守ってこられた伝統を受け継ぎ、愛知医科大学が更に発展するよう、日々精進して参ります。

最後になりましたが、卒業生の皆さまの今後ますますのご活躍とご健勝を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日はご卒業誠にありがとうございます。

大学院学位記授与式

平成29年3月4日（土）午前9時20分から大学本館701会議室において、平成28年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、看護学研究科修士課程修了者10名、医学研究科博士課程修了者15名一人ひとり、佐藤学長から学位記が授与されました。

続いて、佐藤学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。

答 辞

卒業生 堀田奈見さん



残寒の候も過ぎ、木々の芽吹きに春を感じる季節となりました。

本日は、多くの方々にご臨席を賜り、素晴らしい卒業式を挙行して頂きましたことを卒業生一同、厚く御

礼申し上げます。

今日、私たち206名は愛知医科大学を卒業します。

6年前、春風と桜の木に迎え入れられながら、これから医師、看護師を目指すための第一歩を踏み出すのだという、多くの期待とわずかな不安を胸に、この学び舎の門をくぐったことが思い出されます。

医学生、看護学生であることを実感した基礎医学や解剖実習、「病気ではなく、目の前の患者さんを相手にしているのだ。」という気持ちを新たにした臨床実習、そしてそれらの知識・技術を習得した上で6年間の集大成として臨んだ国家試験。

これら幾多の試練を乗り越えられたのは、基礎から臨床まで熱心にご指導くださり、自分が目指すべき医師、看護師像を示して下さった先生方、迷ったとき常に勇気づけ、進む方向を教えて下さった先輩方、私たちを慕ってくれた後輩たち、共に切磋琢磨し励ましあった友人たち、そしてどんな時でも暖かく見守ってくれた家族の支えがあったからこそだと思います。

私たちは学生生活を終え、今、医師、看護師としてスタートラインに立ち、人の生命に携わる者としての責任を伴う立場となります。どんなに困難なことがあろうとも、常に「目の前にいる苦しむ人を助けたい。」という医療の原点に立ち返り、医師・看護師として高い志と使命感を持ち、日々精進して参ります。

最後となりましたが、学長先生、ご来賓の皆さま方、在校生の方々に厚く御礼申し上げるとともに、お世話になりました先生方、医学部父兄後援会、看護学部父母会、大学職員の皆さま、学生生活においてお世話になった多くの方々、そしてこれまで惜しめない支援をして下さった家族に、卒業生一同、心から深く感謝申し上げます。

最後に、母校愛知医科大学の更なる発展を祈るとともに、本学卒業生として、その名に恥じぬように日々研鑽を積み重ねていくことを誓い、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



かまどベンチ寄贈

平成28年度医学部卒業生からの卒業記念品として、寅山グラウンドに「かまどベンチ」6台が寄贈され、平成29年4月10日（月）に除幕式が行われました。【写真】

当日は三宅養三理事長、佐藤啓二学長を始め本学役職者、平成28年度卒業生代表の久下祐史さん他4名が出席しました。

久下さんからは、「私たちが入学した2011年は日本が未曾有の大震災に見舞われた年でした。起きてはほしくない地震ではありますが、今後大規模な地震が来ることは確実と言われています。『かまどベンチ』は、私たちが普段は学生の休憩の場として、そして、いざという時はここで起こされた火が被災された方に安心と安らぎをもたらす灯火として、人々にとって光を与えられるような存在であってほしいと思います。そして、私たちも医師として人々の不安や苦しみに寄り添い、患者さんの救いとなるような存在となるべく精進していくことをここに誓い、私たちからの卒業記念品とさせていただきます。」と贈呈の言葉があり、佐藤学長からは「皆さんが本学で学んだことを祈念する想いと災害時に社会貢献をしようとする想いが『かまどベンチ』という形となっており、大変嬉しく思います。我々は皆さんの気持ちを尊重し、本学を発展させ、社会貢献できるよう努力を続けたいと思っています。」とのお礼のあいさつがありました。

この素晴らしい記念品は、いつまでも大切にさせていただきます。



平成28年度看護実践研究センター 認定看護師教育課程修了証書授与式挙行

昨年9月に開講した看護実践研究センター認定看護師教育課程の平成28年度修了証書授与式が、平成29年3月29日（水）午前10時から、7号館（医心館）多目的ホールにおいて挙行されました。

式は、開式の辞に続き、多喜田恵子看護実践研究センター長から、感染管理分野25名、救急看護分野17名の修了生一人ひとりに修了証書が授与されました。

次いで、多喜田センター長から、「認定看護師教育課程の修了は認定看護師としての活動の始まりです。これからも常に学ぶ姿勢を持ち、どんな困難な時も学習の機会と受け止め、日々精進されますようお願い致します。」と式辞があり、続いて、佐藤啓二学長から、「皆さんは、パンデミック又は災害等が起きた際には、組織の中又は組織を超えて活躍をされる貴重な人材です。常に緊張感を持って仕事をして頂くことが、日本の安心安全に繋がると考えております。皆さんの今後の活躍を期待しています。」と祝辞がありました。

この後、修了生を代表して、救急看護分野の鈴木麻未



式辞を述べる多喜田センター長

さんから「この7か月間での学びは、これから認定看護師として活動する際の礎になると確信しています。皆様のご指導、ご教授を決して忘れることなく、誇りと自覚を持ち、それぞれの現場で役割を果たせるよう精進して参ります。」との謝辞があり、午前10時40分ごろ式は終了しました。

訃 報

下楠菌力医療情報システム課長御逝去



平成29年3月9日（木）に医事管理部医療情報システム課の下楠菌力課長がご逝去されました。享年53歳でした。

下楠菌力課長は、昭和63年3月に名城大学を卒業し、同年4月に本学に就職されました。当初は、病院事務部医事課電算係に配属となり、以降一環として医療情報システム関係の業務を担当されました。

コンピューターのハードウェアやソフトウェアについて最新の情報を常に集取し、併せて豊富な知識を活かし、ネットワークを始め、医療情報システムの運営や管理等を一手に引き受けると同時に若手職員の技術向上の指導にも熱心に取り組んでいました。また、医

事会計システムについても深い見識があり、統計業務やデータ分析についても緻密で妥協を許さない姿勢で取り組まれ、その結果には正確性と信頼感がありました。

平成27年10月に医療情報システム課長となり、医療情報システムの安定稼働や医療情報システム課の運用充実などに積極的に取り組まれておられました。責任感の高さは、誰もが認めるところであり、病が判明してから入院するまでや一時退院中にも、緊急な業務を夜遅くまでこなされていました。彼の抜けた穴は大きく、その痛手は計り知れません。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃 報

市原一郎名誉教授御逝去



平成29年3月14日（火）に市原一郎名誉教授（解剖学講座）がご逝去されました。享年87歳でした。

市原先生は、本学開学と同時に第1解剖学講座の助教授として就任され、その後に教授として、本学医学部解剖学講座における教育及び研究の礎を築かれました。

市原先生は、その温厚な人柄により学生から慕われ、

教育面だけではなく、精神面においても常に学生を温かい眼で見守ってこられました。その反面、研究に対しては医学者としての厳しい視線で臨まれ、先生の指導の下で、同講座では多くの研究業績を積み重ねてきました。

市原先生のご冥福をお祈りするとともに、更なる本学解剖学の発展に努力を続けることを誓い、ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成29年度予算大綱

平成29年度予算が、平成29年3月21日（火）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

教育分野では、米国ECFMGが2023年以降は医学教育の国際的認証を受けている医学部の卒業生以外には米国での医師資格が得られないと宣言したことが引き金となり、日本の医学教育を国際的基準に合致したものにしようとする流れから、一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME）が設立され、一元的に医学教育分野別評価基準の認証に取り組むことになりました。本学では、この評価を平成31年度早々に受審することが決定しており、平成29年度には事前の自己点検評価を着実に実施し、本審査に備える必要があります。

研究分野では、平成28年4月に設立した研究創出支援センターは、研究支援部門、共同実験部門、バイオバンク部門の3部門から成り、平成29年1月に研究URA（リサーチ・アドミニストレーター）1名の配置に加え、4月に研究指導担当・バイオバンク担当として常勤教員1名を配置します。総合医学研究機構と併せて、組織横断的な研究活性化の拠点としての機能が期待されます。

医療分野では、医療法改正ごとに医療計画の見直し、充実が重ねられ、平成30年（2018年）からスタートする医療計画は「第七次」となります。団塊の世代が全て75歳（後期高齢者）となる平成37年（2025年）を迎えるまでの最重要な年とされるのが平成30年（2018年）と言われており、新たな医療計画と介護保険事業計画がスタートし、診療報酬と介護報酬の同時改定があります。診療報酬改定の方針に、本院では、迅速かつ柔軟に対応することが必要です。また、大学病院に求められる役割、高度な医療を広域に支えることを全うし、更に医療圏における診療実績（手術・放射線治療及び化学療法等）を確実に積み上げ、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を目指します。

<主な事業>

教育・研究に関するもの

○教育・研究環境の整備

- ・図書館システムの更新
- ・研究業績管理システムの構築
- ・学内情報通信システムの更新
- ・研究ブランディング事業の採択

○教育・研究環境の再生・整備

- ・ICTの活用
- ・IR室の充実化
- ・運動療育センタートレーニング機器更新
- ・総合医学研究機構研究基盤設備再生事業
- ・大学本館講義室視聴覚・音響機器の更新

○医学教育の国際標準化に向けた取組み

- ・国際認証に備えた臨床実習の充実

- ・私立大学等改革総合支援事業タイプ1の獲得

○看護学の発展向上に寄与する人材育成

- ・大学院看護学研究科で高度実践看護師の養成
- ・多職種連携ハイブリッドシミュレーターの整備

医療に関するもの

○医療に関する人員増

- ・教員の増員（放射線科、眼形成・眼窩・涙道外科、緩和ケアセンター、救急診療部、脳血管内治療センター）
- ・メディカルクリニック診療体制の強化
- ・スタッフの増員（言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学士、歯科衛生士、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士）
- ・医師事務作業補助員の増員

○診療用機器の整備

- ・放射線機器の更新（MRI、CT、長尺撮影システム、血管撮影装置）
- ・放射線画像保存HDDの増設
- ・医用画像表示モニタ更新

○大学院学生（NP）奨学金制度の貸与

- ・本院の看護師で本院大学院看護学研究生に進学し、修了後に引き続き本院に診療看護して勤務する者に奨学金を貸与する。

○ドクターヘリ関連

- ・ドクターヘリ格納庫の建設

法人・大学運営に関するもの

○学生募集関係

- ・学生募集強化のためのオープンキャンパス充実化
- ・インターネット出願システムの導入

○学生・職員の健康増進

- ・保健管理センターの設立
- ・インフルエンザ予防接種の対象者拡大

○キャンパス再整備

- ・アメニティ棟新築工事、立石池外周道路の拡幅工事

○寄付文化の醸成

- ・キャンパス整備事業に係る寄付募集事業

○ホームページリニューアル

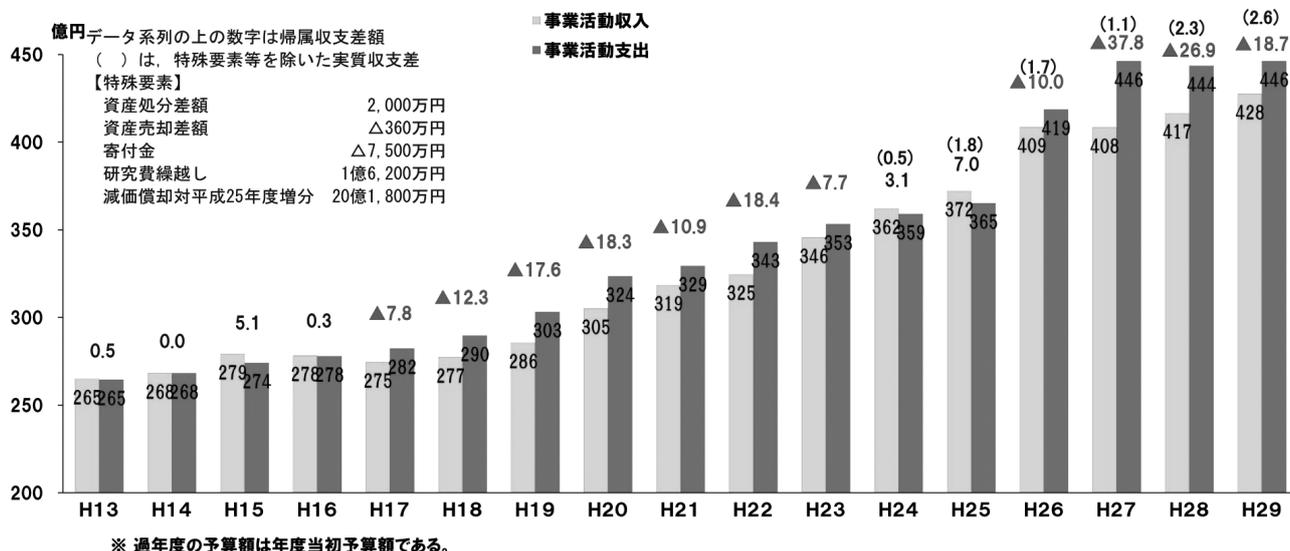
- ・積極的な情報発信

平成29年度の予算状況は、

事業活動収入 427億5,838万余円

事業活動支出 446億2,438万余円

となっており、事業活動収支差額は18億6,599万余円の支出超過となり赤字となっていますが、特殊要素等を除いた実質の収支額は2億5,540万円の黒字予算となっています。



事業活動収支予算では、収入42,758百万円（前年度比2.52%増）、支出44,624百万円（前年度比0.27%増）となり、収支差は、1,866百万円の支出超過となっていますが、資産売却差額4百万円、資産処分差額20百万円、研究費の繰越分162百万円、減価償却額の対平成25年度増額分2,018百万円の単年度特殊要素等を調整後の収支額では、255百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入5,173百万円、寄付金収入525百万円、補助金収入1,774百万円、医療収入33,802百万円など資金収入合計44,125百万円となっています。

一方、人件費支出18,573百万円、教育研究費支出20,048百万円、管理経費支出657百万円、施設関係支出845百万円、設備関係支出2,175百万円、借入金返済支出1,772百万円など資金支出合計44,529百万円となっています。

＜ 資金収支予算 ＞

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減
学生生徒等納付金収入	5,172,720	5,310,073	△ 137,353
手数料収入	234,356	235,554	△ 1,198
寄付金収入	524,700	473,480	51,220
補助金収入	1,773,871	1,702,049	71,822
資産売却収入	3,600	0	3,600
付随事業・収益事業収入	540,516	404,929	135,587
医療収入	33,802,472	33,071,889	730,583
受取利息・配当金収入	7,344	13,274	△ 5,930
雑収入	668,810	467,458	201,352
借入金等収入	150,000	3,150,000	△ 3,000,000
前受金収入	1,123,356	1,045,910	77,446
その他の収入	7,353,614	9,623,674	△ 2,270,060
資金収入調整勘定	△ 7,230,073	△ 6,880,375	△ 349,698
前年度繰越支払資金	3,561,180	3,888,959	
収入の部合計	47,686,466	52,506,874	△ 4,820,408

支 出 の 部			
科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減
人件費支出	18,573,056	18,176,775	396,281
教育研究経費支出	20,047,634	20,433,192	△ 385,558
管理経費支出	656,888	557,945	98,943
借入金等利息支出	320,876	314,893	5,983
借入金等返済支出	1,771,846	5,524,846	△ 3,753,000
施設関係支出	845,019	1,984,819	△ 1,139,800
設備関係支出	2,174,584	1,275,596	898,988
資産運用支出	150,000	150,000	0
その他の支出	3,962,405	3,951,779	10,626
[予備費]	300,000	250,000	50,000
資金支出調整勘定	△ 4,273,510	△ 3,714,522	△ 558,988
翌年度繰越支払資金	3,157,668	3,601,551	△ 443,883
支出の部合計	47,686,466	52,506,874	△ 4,820,408

＜事業活動収支予算＞

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位：千円)

		科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減	
		教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,172,720	5,310,073
手数料	234,356			235,554	△ 1,198	
寄付金	453,700			407,333	46,367	
経常費等補助金	1,649,393			1,602,496	46,897	
付随事業収入	540,516			404,929	135,587	
医療収入	33,802,472			33,071,889	730,583	
雑収入	668,810			467,458	201,352	
教育活動収入計	42,521,967			41,499,732	1,022,235	
事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減	
		人件費	18,663,382	18,329,602	333,780	
		教育研究経費	24,470,634	24,818,192	△ 347,558	
		管理経費	840,688	748,945	91,743	
		徴収不能額等	8,800	21,240	△ 12,440	
		教育活動支出計	43,983,504	43,917,979	65,525	
		教育活動収支差額	△ 1,461,537	△ 2,418,247	956,710	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減	
		受取利息・配当金	7,344	13,274	△ 5,930	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	7,344	13,274	△ 5,930	
	事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減
			借入金等利息	320,876	314,893	5,983
			その他の教育活動外支出	0	0	0
			教育活動外支出計	320,876	314,893	5,983
		教育活動外収支差額	△ 313,532	△ 301,619	△ 11,913	
		経常収支差額	△ 1,775,069	△ 2,719,866	944,797	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減	
		資産売却差額	3,600	0	3,600	
		その他の特別収入	225,478	195,700	29,778	
		特別収入計	229,078	195,700	33,378	
	事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(9月補正後)予算	増 減
			資産処分差額	20,000	20,000	0
			その他の特別支出	0	0	0
			特別支出計	20,000	20,000	0
		特別収支差額	209,078	175,700	33,378	
〔予備費〕		300,000	250,000	50,000		
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,865,991	△ 2,794,166	928,175		
基本金組入額合計		△ 4,000,000	△ 5,400,000	1,400,000		
当年度収支差額		△ 5,865,991	△ 8,194,166	2,328,175		
前年度繰越収支差額		△ 48,241,259	△ 43,631,113	△ 4,610,146		
翌年度繰越収支差額		△ 54,107,250	△ 51,825,279	△ 2,281,971		
(参考)						
事業活動収入計		42,758,389	41,708,706	1,049,683		
事業活動支出計		44,624,380	44,502,872	121,508		



—優秀な医師を育て上げる使命—

医学部教務部長 石橋 宏之

本年4月1日から、3期6年にわたる細川好孝教務部長（生化学講座・教授）の後任として、医学部教務部長を拝命しました。

私は平成5年4月に本学に参りましたので、今年で25年目を迎えます。生え抜きの教授を除くと最古参となりました。これまで長くにわたり、一兵員として大学、病院に携わってきましたが、平成26年1月に外科学講座（血管外科）の教授となってからは、責任ある立場で医局を運営し、医局員を育てることに力を注いできました。昨年4月から教務部次長として、教務活動に参加してきましたが、今回、医学教育全体を統括する部長職を引き受けることになりました。教授選考時の候補者講演会では、座右の銘である「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり」（後藤新平）を引用し、良き医局員を育て上げることが教授としての職務とすると述べました。図らずも、今回、教務部長を引き受けることになり、医局員だけでなく、医学部から優秀な医師を育て上げる使命を頂いたこととなります。

現在、本学における医学教育は二つの大きな課題を抱えています。

一つは、教育プログラムの改革です。2010年9月に米国ECFMGから「2023年以降は、国際的な認証評価を受けていない医学部の出身者には申請資格を与えない」という通達が出ました。毎年、ECFMG試験に合格して、米国で医療を行う医師は約80名で、多くの医学生には無関係です。しかし、国際認証の無い医学部は、志の高い受験生が受験しなくなり、医学生のレベルが低下します。国際認証を取るためには、世界医学教育連盟（WFME）が定める世界標準の医学教育を実施しなくてはなりません。一例として、臨床実習では80週（1年40週ですので、2年間）の実習時間の確保が要求されます。それも見学型実習（ポリクリ）ではなく、臨床参加型実習（クリニカルクラークシップ）が求められています。そのために、臨床実習に先立つ共用試験CBTとOSCE（客観的臨床能力試験）を4学年次の秋季に行います。学生は、4学年次の夏季休業までに、全ての臨床講義を終え、医師国家

試験並みの知識を覚え、基本的診察技能を身に付ける必要があります。従来にも増して、コンパクトで濃密な教育が要求されていますが、本学では、平成31年受審に向けて準備を進めております。

もう一つの課題は医師国家試験対策です。今年の全国平均の合格率は88.7%と過去10年間で最低でした。本学は81.4%で、他大学と比べて国試対策の脆弱性が明らかとなりました。他大学では、5学年次春から国試対策を実施しているのに対して、本学学生の多くは6学年次春から、中には夏休みの西医体後からという強者もいます。国試対策に対して、ぬるま湯体質があります。そこで、学部長直属組織として、医師国家試験対策強化委員会（委員長：内藤宗和教授（解剖学講座））を設立し、5～6学年次生の総合試験を中心にテコ入れをしています。臨床実習が4年次秋から2年間継続するため、その間座学がありませんので、学力低下の危惧があります。医師国家試験予備校のカリスマ講師である塩澤昌英先生には客員教授として、密接なアドバイスを頂いて対策を練っていくこととなります。

本年4月の新入生合宿では、新入生たちに6年間で卒業し、ストレートで国試に合格するように訓示しました。夕食の懇談会では、皆、医師になるという志を抱き、目が輝いていました。奇しくも、6年後は私の定年ですが、一人も落伍者を出すことなく、一緒に本学を卒業し、医師にすることが新しい任務だと考えています。

主な役職者の改選

○ 大 学

【副学長（診療担当）】



羽生田正行

(外科学講座（呼吸器外科）・教授)

愛知医科大学のキャンパス整備も今年度で一応完了予定となりました。きれいに整備された病院で診療ができることを本当に感謝しています。新病院で安定的な収益を得ることが、今後の更なる学納金の減額や研究棟等の整備に直接繋がると考えます。診療担当として全力で病院の発展に尽くして参りたいと考えております。

(再任, 任期: H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31)

【総合学術情報センター長（事務取扱）】



佐藤 啓二

(学長)

本年4月医学情報センター（図書館）と情報処理センターが統合し、ICT支援部門が加わり、総合学術情報センターとしてスタートしました。ICT支援部門では、学習履歴や学習成果の蓄積ができるe-Portfolioを新たに開発し、Aidle-Kの利用促進に加えて、著作権を確認した動画や画像の提供等も積極的に行い、ICT教育内容を充実拡大させていく予定です。

(新任, 任期: H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31)

【研究創出支援センター長】



若槻 明彦

(産婦人科学講座・教授)

今年度から本格稼働する研究創出支援センター長を拝命いたしました。同センターは研究支援部門、共同実験部門、バイオバンク部門に分かれており、研究の具体的指導や論文作成のアドバイスなどを行い、本学における論文数の増加や研究の質的向上に向けて尽力する所存です。

(新任, 任期: H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31)

【国際交流センター長】



渡辺 秀人

(分子医科学研究所・教授)

本学の国際交流活動を統括する国際交流センターは、学術国際交流協定の維持と拡大、学生・教職員向けの語学力向上、異文化理解等を目的としたセミナーの開催、外国人研究者の支援等の事業を行っています。どうぞよろしくお願ひします。

(再任, 任期: H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31)

【保健管理センター長】



鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

本年4月に新しく開設された、保健管理センター長を拝命いたしました。学生、また教職員の健康管理を中心に、大学の保健管理に関する業務、調査及び研究を実施し、学びやすく、また働きやすい環境づくりを推進していきたいと思ひます。

(新任, 任期: H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31)

○ 医学部

【産業保健科学センター長】



鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

引き続き、産業保健科学センター長を拝命いたしました。時代とともに移り変わる産業構造、そして多様な労働環境を客観的に把握し、それらの科学的なエビデンスを基に働く人々の健康増進、疾病予防を推進し、社会に貢献して参りたいと思ひます。

(再任, 任期: H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31)

【運動療育センター長】



牛田 享宏

(学際的痛みセンター・教授)

病院や自治体、その他の機関との連携し、スポーツをする市民から患者さんまで広くニーズに合った新しいコンセプトでセンターの活性化を目指したいと思います。

(再任、任期：H29. 4. 1～H31. 3. 31)

【薬毒物分析センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

中毒事例に対応できるよう、高度救命救急センターとの連携を密に取りながら取り組んでいきたい。

(再任、任期：H29. 4. 1～H31. 3. 31)

【医学教育センター長】



伴 信太郎

(医学教育センター・特命教授)

医学教育センター長に就任致しました。医学教育は全ての教職員が取り組むべき活動であり、その全体のオーガニゼーションをするのが医学教育センターの役割であると考え、教育体制の構築に全力を尽くしたいと思います。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

(新任、任期：H29. 4. 1～H31. 3. 31)

【シミュレーションセンター長】



伴 信太郎

(医学教育センター・特命教授)

シミュレーションセンター長を拝命致しました。医学部、看護学部、臨床現場のスタッフの皆さまに活用して頂き、患者安全に貢献できるようなセンターにできるように努力していきたいと思えます。皆さまのご理解とご支援を是非とも宜しくお願い致します。

(新任、任期：H29. 4. 1～H31. 3. 31)

【IR室長】



岡田尚志郎

(薬理学講座・教授)

IR室は大学内の様々な情報の収集、分析と可視化による活用を目的とした組織で、今年度から専任講師1名で設置されました。『必要な時に、必要な学内情報を、必要とする職員・部署に提供する』ことができるように努めてまいります。よろしくお願い致します。

(新任、任期：H29. 4. 1～H30. 3. 31)

○ 病院

【病院長】



羽生田正行

(外科学講座(呼吸器外科)・教授)

引き続き、2期目の病院長を拝命いたしました。病院では勤務医師の過重労働問題や専攻医制度の開始、地域包括ケアシステムの構築など解決できていない問題が山積しています。これらの問題をクリアしながら、病院が高収益を維持されるシステムの構築を行っていきたくと考えています。よろしくお願い申し上げます。

(再任、任期：H29. 4. 1～H31. 3. 31)

愛知医科大学バスロータリー完成 名鉄バス愛知医科大学病院線開設 記念発車式挙行

平成29年4月1日からの本学バスロータリーの完成に合わせて、名鉄バスに「愛知医科大学病院線」と「本地ヶ原線」の二つの新系統が開設されました。

この新系統は、愛知県が策定している「あいち公共交通ビジョン」の広域的公共交通ネットワーク形成の考え方に合致したもので、本学がある長久手市を始め、尾張旭市、瀬戸市に住むバス利用者の利便性向上を目的としています。

これに伴い、本学を中心に東西南北から公共交通の乗り入れが実現することとなりました。特に、瀬戸駅前から大学病院を結ぶ路線が開設されることで、瀬戸市方面からのアクセスが格段に便利になりました。

バスロータリーの完成と新系統の開設を記念して、平成29年3月30日（木）午前10時から記念発車式が挙行され、総勢150名の方々にご参加頂きました。

式典の始まりに当たり、主催者として三宅養三理事長から「利用者の方々にとって、これまで以上に利便性の向上が図られ、より安全・快適なサービスを提供できるものと考えております。名鉄バス株式会社及び各市との連携の下、大学及び大学病院をご利用になられる方に対し、充実したアクセスを提供させていただきます。」とあいさつがあり、続いて、名鉄バス株式会社の小池潤代表取締役社長からあいさつがありました。ご来賓のあいさつを頂いた後、小林裕之中部運輸局愛知運輸支局長、加藤富則愛知県振興部次長、伊藤保徳瀬戸市長、水野義則尾張旭市長、鈴木孝美長久手市副市長、小池社長、三宅理事長、佐藤啓二学長の8名による記念テープカットが行



あいさつする三宅理事長



記念便に乗り込む式典参加者

われ、会場は温かい拍手で包まれました。

その後、開業を祝して本学職員から乗務員へ花束が贈呈され、名鉄バス株式会社名古屋営業所の大野淳所長の発車合図により、記念便が発車しました。

愛知医科大学スクールバス南北路線 3年間の運行に幕

平成29年4月1日から名鉄バスの新系統「愛知医科大学病院線」が開設されることに伴い、3月31日をもって、尾張旭駅及び長久手古戦場駅を結ぶスクールバス南北路線が廃止となりました。

新病院が開院した平成26年4月以降は、南北を結ぶ新路線として運行していましたが、その役目を終えることとなりました。

スクールバスの最終便には、最後の勇姿を見ようと多くの教職員が駆けつけました。



3月31日の最終便

平成28年度新病院建設募金感謝の集い開催

平成29年2月18日(土) 大学本館第1会議室において、新病院建設募金感謝の集いが開催されました。

これは、同募金に100口以上の寄附をされた個人の方々に感謝の意を表すための会で、平成28年12月末までに寄附をされた方々を対象に行われました。

始めに、三宅養三理事長から同募金の趣旨にご賛同頂き、ご支援頂いたことに対する感謝の言葉が述べられ、日本における寄附文化の醸成の必要性、大学の近況等について説明がありました。

続いて、三宅理事長から寄附者一人ひとりの紹介があり、感謝状が贈呈されました。その後、参加者全員による意見交換が行われ、中央棟の寄附者銘板、寄贈絵画等の見学を行いました。

見学後に催された懇親会では、本学卒業生で衆議院議員の河野正美氏から目まぐるしく変わる国政についてお話を頂きました。また、出席された方々同士及び本学役員との懇談が行われ、大学、新病院への期待の意見が多数寄せられました。



寄附者との記念撮影



三宅理事長から近況報告がされた

学校法人愛知医科大学 新病院棟 2016年医療福祉建築賞《準賞》受賞

一般社団法人日本医療福祉建築協会(JIHa)が毎年主催する顕彰事業「医療福祉建築賞」は、1991年に創設され、竣工後1年以上たつ新しい医療福祉施設を対象に優良作品を募り、優秀と認められた建築物に授与されるものです。この賞はデザインだけでなく、利用者の快適性やスタッフの使い勝手といった視点も合わせて総合的な評価が行われます。

この度、平成26年4月に竣工した愛知医科大学病院中央棟(設計:株式会社山下設計、施工:鹿島建設株式会社)が、厳正な審査の結果、2016年医療福祉建築賞《準賞》を受賞しました。

選評では、「生活時間の最大活用」という新病院建設のコンセプトの下、NAVITを導入し患者さんが快適に過ごせるよう混雑を緩和したことやスタッフの動線に配慮した各診療科と連携した診療機能の近接配置、駐車場



を立体にして三層の病院外来と直接水平移動ができる効率的なルートの確保等の無駄な時間を使わせない試み、診療科に捕らわれない病床管理や省エネルギー対策などが高く評価されました。

平成28年度省エネ大賞（省エネ事例部門） 省エネルギーセンター会長賞 受賞

愛知医科大学は、新病院での省エネ活動や成果などが評価され、平成28年度省エネ大賞（省エネ事例部門）省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。この賞は、省エネルギー意識や活動、取り組みなどの浸透促進に寄与することを目的としており、優れた省エネルギー活動を推進し成果を上げた事業者が顕彰され、今回は全国の医科大学で唯一の受賞となりました。

受賞背景には、新病院完成後に省エネの検証ができるように、建設前から大学の職員が、床面積当りのエネルギー消費量について目指すべき省エネ目標値を算定し、設計者や施工者と繰り返し検討会を実施してきたことなどが挙げられます。具体的な検討内容としては、空調や照明などの高効率機器の採用、更に空調にはインバータ機能、照明には調光機能を各所に持たせるなど、後から調整（チューニング）ができるように配慮した上で、BEMS（ビル・エネルギー・マネジメント・システム）をクラウド化し、院内のいたる場所から空調や照明のチューニングができる仕組みを設けたことなどが挙げられます。更に完成後も、省エネパトロールや各種検討会、感染制御チームとの連携活動など、現場目線の省エネ活動や改善を繰り返し積み重ねてきました。その一方で、病室や診察室等は個別エアコンで室温調整を可能とし、ロビー等ではサーカディアン照明を採用する等、外来・入院患者さんには快適な環境を提供できるようにしています。

こうした活動の結果、床面積あたりの年間エネルギー消費量は、算定目標値3,200MJ/㎡を大きく下回る2,210MJ/㎡を達成し、その削減率は約30%に上り、大学



省エネ大賞授賞式

病院ではトップレベルの省エネを実現することができています。

今後も、こういった活動を継続し省エネ・環境維持に努めていきたいと思っております。

腫瘍免疫寄附講座 上田龍三教授 平成29年度春の褒章（紫綬褒章）受章

平成29年4月29日付けで春の褒章が発令され、腫瘍免疫寄附講座の上田龍三教授【写真】が紫綬褒章を受章しました。

褒章は、明治14年12月の「褒章条例」（太政官布告第63号）公布により、紅綬褒章、緑綬褒章、藍綬褒章が制定されたのが始まりで、以降大正7年に紺綬褒章、昭和30年に黄綬褒章、紫綬褒章が制定されました。

「紫綬褒章」は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に対して授与されるもので、上田教授はがん免疫療法の第一人者として、難治性の血液の希少がん成人T細胞白血病・リンパ腫（ATLL）の治療薬の開発に多大な功績を残されています。

受章された上田教授から「今回の受章は、最も治療の困難な白血病である成人T細胞白血病・リンパ腫（ATLL）の新しい治療薬の開発研究が評価されたものです。個人的には、がん臨床研究医として患者さんやご家族に喜ばれたことが何よりも嬉しく、これまでの多くの共同研究者に改めて感謝したいと思います。また、がんの臨床研究を一貫して続けられる環境に恵まれましたことを感謝しております。本学では、この抗体医薬を白



血病の治療から新しい展開として、がん免疫療法に応用できるのではないかと研究を続けております。本学の皆さまのご厚情に深く感謝致しております。」との感想がありました。

名誉教授の称号授与

平成29年3月31日付をもって定年退職された大竹千生教授（内科学講座（内分泌・代謝内科））、今井裕一教授（内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科））に愛知医科大学名誉教授の称号が授与されました。

予算全学説明会の開催

平成29年3月29日（水）大学本館たちばなホールにおいて、平成29年度予算を中心とする全学説明会が開催され、職員140名が参加しました。【写真】

まず、三宅養三理事長から、病院は海外からの視察団も受け入れる機会が多くなってきており、評判が海を越えて伝わっていることを実感するとのお話がありました。また、医学部の学納金を減額したこと、借入金の返済額がピークを迎えること、地域医療包括ケアシステム等の医療費抑制策が取られること、新病院となって新たな課題が生まれたこと等、決して財政状況は楽観視できるものではないことから、具体的な改善策と高収益体質の構築に繋がる事業を最優先とし、教育・研究も推進していく予算編成を行った旨のあいさつがありました。

引き続き、予算責任者である島田孝一法人本部長からは平成29年度予算について、その規模、実質の収支額及び重点事業の内容等について説明がありました。

併せて、新設駐車場が平成28年度は職員用540台分の



整備が終わり、平成29年度は外来駐車場として110台分が整備予定と、駐車場の充実が図られていることや平成29年4月1日からは名鉄バスの新規路線の運行が開始され、本学を結ぶ公共交通機関のネットワーク全体像が紹介され、本学へのアクセス環境がより便利になったとの説明がありました。

平成29年度職員新任式挙行

平成29年4月3日（月）大学本館303講義室において、平成29年度職員新任式が挙行されました。

式では、三宅養三理事長から、「10年程前に構想を練り始めたキャンパス再整備も、今年度をもって完遂となります。多くの職員の努力もあり、恐らくこの愛知医科大学病院は、日本で最も機能的で優れた病院であると、自負しています。本院では、訪れた患者さんが元気になることで、笑顔をもたらした職員の皆さんも元気になり、楽しく働ける病院でありたいという想いを込めて「元気ホスピタル」という標語を掲げています。皆さまには、元気になる病院、そして大学においてどうか末永く頑張ってください。」とあいさつがありました。

なお、今年度の新規職員は239名で、内教員83名、事務14名、医療28名、看護114名です。



宣誓を述べる新規職員

平成29年度新規採用職員研修実施

平成29年度新規採用職員154名を対象に、平成29年4月4日（火）、5日（水）の2日間にわたり、事務職員、医療職員、看護職員合同の新規採用職員研修が実施されました。

初日は、学生から社会人への意識転換に触れ、「学生と社会人の違い」を始め、自ら考え自発的な社会人意識、マナー意識を醸成する研修を行いました。

2日目は、本学の概要、ビジョン等を説明する講義を行い、島田孝一法人本部長から、本学の財政状況の解説とともに先人たちの言葉を紹介して、努力の大切さを伝えました。また、羽生田正行病院長から、本院の理念、基本方針に加え、病院の災害時の機能等についても説明があり、受講者から「災害拠点病院に勤めるということについて、医療人として意識していきたい。」「災害時に貢献できるよう力を付けていきたい。」といった感想がありました。

また、運動療育センターの若林淑子事務長から「マインドフルネス」の講義があり、職員として大切なストレスケア手法の一つとして、手軽にできるリラクゼーション方法のレッスンを受けました。体験者からは「心が落ち着きました。」「仕事で忙しい中でも運動してリフレッシュしていきたい。」との感想がありました。

続いて、平成29年4月6日（木）には事務職員14名、医療職員24名を対象に、新人研修「ディスカバリー」を実施しました。

受講者から「自分の経験からだけで考えるのではなく、違った角度から物事を見ることを意識してプロになりたいと感じました。」「信念を持って積極的に行動し、周囲のニーズに応じていけるように努力していきたい。」といった振り返りのコメントがありました。

他職種合同の研修期間を終えた後、平成29年4月7日（金）・10日（月）・11日（火）の3日間にわたり、新規採用事務職員研修を実施しました。事務組織の管理職等21名から、各部門の説明があり、事務組織の役割を理解し、職員に必須となる文書事務等の学習を行いました。新規採用された事務職員14名は、内定期間中から「愛知医科大学・病院の特徴」と「愛知医大の職員として、どんな大学及び病院にしていきたいか」をまとめるグループ課題に取り組み、研修最終日にプレゼンテーションを行いました。

受講者から「入職前から愛知医科大学、病院のことを真剣に調べ、チーム全員で頑張りました。」「人前で話すことに緊張しましたが、経験を積んで慣れていきたい。」との感想が寄せられました。配属後の成長と活躍により、組織への貢献が期待されます。



病院の理念を説明する羽生田病院長



新人研修



新規採用事務職員によるプレゼンテーション

講義概要（新規採用職員研修）

- 4月4日（火）職場の常識、ビジネスマナー
- 4月5日（水）大学の概要とビジョン、新規採用職員に期待すること

講義概要（新人研修「ディスカバリー」）

- 「プロ意識」「目的・意義」「ソリューション」「ポテンシャル」を見出す

講義概要（新規採用事務職員研修）

- 事務組織各部門の役割、機能及び目標
- 文書事務、電話対応、事務端末の取扱、自己啓発のすすめ
- グループ課題発表

朝日新聞社主催

佐藤啓二学長が朝日医療シンポジウムへ登壇

平成29年2月12日（日）午前10時からANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋において、朝日新聞社主催「朝日医療シンポジウム～愛知から発信する医療のチカラ～」が開催されました。【写真】

本シンポジウムは、基調講演と県内の医学部を持つ4大学が現代医療の重要なテーマ「地域医療」、「愛知から育つ医療人」、「国際医療」の三つについてパネルディスカッションが行われ、本学からは佐藤啓二学長が登壇をしました。

佐藤学長からは、長久手市との人材と知財の有効利用を推進する連携事業を始め、運動療育センターや災害医療研究センターでの研究活動に触れ、地域医療に貢献するための取り組みを紹介されました。また、教育面では、ICTを活用し膨大な情報から有効なものを取得・利用する能力が医療人には求められることから、ICT支援部門を擁する総合学術情報センターについて説明がありました。その他、大学に根づく学生たちの自主自立の姿勢や仲間とともに協力し合いボランティア活動や海外留学をサポートする学生サークル「HIAMU」の紹介もありました。

シンポジウムには、教育・医療関係を始めとする多くの方の参加があり、参加された方々は皆真剣な表情で熱心に聞き入っていました。



佐藤学長

名古屋市教育委員会共催

市民大学公開講演会開催

平成29年2月25日（土）午後1時30分からイーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会との共催で市民大学公開講演会が開催されました。【写真】

当日は、名古屋市を始めとする多くの一般市民の方々にご参加頂き、「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマに、2部構成で行われました。

講演会は、佐藤啓二学長による開催のあいさつに始まり、第1部講演では、先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授から「健康寿命延伸」に貢献する最先端の健康外来－ほんの2.5mlの採血で分かるあなたの現在の健康状態－と題して、平成27年5月に開設された全国の大学病院で初となるマーナ（mRNA）健康外来での早期診断・治療に向けた先制・統合医療やがん関連遺伝子や長寿遺伝子について、具体的な症例や数値を引用しながらお話し頂きました。

続いて、第2部講演では、外科学講座（乳腺・内分泌外科）の中野正吾教授から「乳癌の診断・治療の最前線」と題して、本院で実施する乳房温存療法や乳房切除術の解説や組織拡張器を用いた人工乳房埋入法や遊離皮弁移植法による乳房再建術について説明がありました。また、乳癌から命を守るためには早期に発見し、適切に治療を行うことが重要であると強調され、参加された方々は、各講演を熱心に聞き入っていました。

最後に、佐藤啓二学長から閉講のあいさつとして、4月に開設される名鉄バスの新規路線の紹介やメディカルクリニックの施設紹介があり、盛況のうちに講演会は終了しました。



福沢教授



中野教授

総合学術情報センター設置

大学は「知の拠点」として、医学情報（書籍・電子媒体）を蓄積し、その利活用について新たな対応を求められています。そこで、学生や職員がICT（Information Communication Technology）を利用して、自ら修学し、自ら気づき、自ら成長する拠点となることを目指して、医学情報センター（図書館）と情報処理センターの統合・機構改革を行い、平成29年4月1日付で総合学術情報センター（Academic Media Center）が設置されました。

本センターには、図書館部門、ICT支援部門及び情報

基盤部門が設置されており、図書館部門は、多様化している学術情報を収集、管理及び運用し、教職員、学生等の利用に供し、教育・研究・診療の充実を担い、ICT支援部門は、教育・研究に関するICT支援の向上を担い、情報基盤部門は、学術研究の振興に寄与し、情報処理教育を促進するとともに、教務及び各種の事務の合理的・効果的処理を担います。この三部門が一体となって、新時代に向けた「知の拠点」として社会貢献ができるセンターの構築を目指します。

保健管理センター設置

近年、身体的な問題に加えて、心の問題を抱えた学生・職員へのサポートの重要性が増し、学内に学生及び職員を対象とした保健管理部門を設置することが課題でした。そこで、保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査及び研究を行い、学生及び職員の健康教育並びに健康の保持増進を図ることを目的として、平成29年4月1日付で保健管理センターが設置されました。

本センターには、看護師が常駐し、健康相談、健康指

導及び軽症患者に対する応急処置（市販薬常備）、受診指導に関すること等を行っています。また、体調不良時には簡易ベッドで休養もできます。

気軽に利用できるセンターとして、学生及び職員の保健管理に役立つことが期待されます。

利用時間：月曜日から金曜日までの9時から17時まで
（祝日は除く）

場 所：D棟6階

男女共同参画プロジェクト委員会 キャリア教育講演会開催

男女共同参画プロジェクト委員会の事業の一環として、平成29年3月8日（水）午後4時30分から大学本館205講義室において、「愛知医科大学キャリア教育講演会－これからの女性医師のキャリアアップ－」が開催されました。本講演会は、医学生の時期から男女共同参画やワークライフバランスについて理解しておくことを目的としており、学生や教職員30名の参加がありました。

当日は、「女性医師が必要とされる時代－あなたは自分の将来像が描けますか？－」と題して、水野真理先生（水野宏胃腸科内科・副院長、本学医学部非常勤講師）の講演、「医師として、プロフェッショナルを考えよう」と題して、青木瑠里先生（救命救急科・講師）の講演が二部構成で行われました。

開院している先生、大学病院で働く先生のそれぞれの立場から、色々な経験談をお話して頂き、聴講した学生にとって、医師としてのキャリアアップについて具体的にイメージすることができ、また、活発な質疑応答も行われ大変有意義な講演会となりました。

最後に、男女共同参画プロジェクト委員会の若槻明彦委員長（副学長、産婦人科学講座・教授）から、本学における女性医師支援の現状について紹介がありました。

男女共同参画プロジェクト委員会では、教職員や学生のために様々な企画を立案・実施していきます。



女性医師支援について説明する若槻委員長



水野先生



青木先生

教授就任インタビュー



緩和ケアセンター・教授

もり 森
なおはる 直治

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

緩和ケアは、「がん」のみならず全ての病気に悩む患者さんを対象とするケアで、患者個々の価値観に寄り添い、生活の質や満足度といった、治療成績にこだわらないアウトカムを求めていく新しい考え方の医療です。また、緩和ケアは、わが国のがん対策の最重要課題の一つであり、がん診療に取り組む本院においても、その普及啓発は喫緊の課題となっています。緩和ケアチームの活動を中心に症状緩和や療養生活の向上、そして幸せな人生であったと最期を迎えられるように緩和ケアの提供に努めて参ります。

臨床面では更に、私が長年取り組んでおります代謝栄養の領域でも貢献したいと考えます。栄養不良は、全ての疾患の治療成績を悪化させ、生活の質を低下させます。栄養サポートチーム（NST）の活動を通じて、本院における医療のベースとなる栄養管理の質向上に注力したい思います。

研究面では、がんの悪液質やサルコペニアといった筋肉量、体蛋白量の減少を生ずる難治性の栄養不良の病態の解明や治療法の確立に取り組めます。緩和医療や代謝栄養は、その重要性が広く認知されるようになり、医師国家試験においても問題数が急増しています。医学教育においては、学部教育、大学院教育を通して緩和医療、臨床栄養の基本的な医学知識と技術を身に付け、更に高い志をもつ若い人材の育成に努力致したいと考えます。どうかよろしくご厚意申し上げます。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

20余年消化器外科医として、手術や抗がん治療に携わる中で、がん患者さんの栄養管理の難しさに直面し「悪液質」という病態に興味を持ちました。悪液質は、がんのみならず慢性疾患に共通する筋肉量の減少を主徴とする栄養不良の症候群で、治療成績や予後、生活の質に大きく影響しますが、未だ有効な対処方法が確立されていません。また、実臨床において多くのがん患者さんをサポートするうちに、緩和ケアの重要性を痛感し、緩和ケアチーム活動に取り組みました。緩和ケアチームでは、短時間に患者さんの状態を把握し、症状を緩和する対応力が求められ、その基礎には腫瘍学や抗がん治療に関する知識はもとより、全人的な思考が必要です。日本における緩和ケアの歴史はまだ浅く、十分に浸透しているとは言えませんが、その普及、啓発にやり甲斐を感じています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

学生の皆さんは、将来のいくつもの選択肢があり、大きな可能性があります。早い時期に明確な将来の目標を持てれば、実現の可能性も高くなりますが、すぐには見つからないかもしれません。しかし、その時々を大切に、与えられた仕事に誠意をもって取り組むことで実力が培われ、次第に自身の進むべき道、目標も定まっていくと思います。その時が来るまで、多くのことを経験し、コミュニケーション能力を磨き、地力を養いましょう。

緩和ケアや栄養管理は医療の基盤で、質の高い医療を提供する上で不可欠なものです。聞きたいことや相談したいことがあれば、気軽に話しかけて下さい！

オフショット



人魚姫の像（デンマーク・コペンハーゲンにて）



地域看護学・教授

わかすぎ さとみ
若杉 里実

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

21世紀における国民健康づくり運動の一環として愛知県が策定した「健康日本21あいち新計画」(2013-2022)では、健康長寿あいちの実現(健康寿命の延伸・健康格差の縮小)を基本目標に掲げ、①生涯を通じた健康づくり、②疾病の予防及び重症化予防、③生活習慣の見直し、④社会で支える健康づくりを基本方針として展開しています。また、厚生労働省による「健やか親子21(第2次)」では、全ての子どもが健やかに育つ社会の実現を目指し、①切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策、②学童期・思春期から成人期に向けた保健対策、③子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくりを基盤課題として取り組んでいます。

地域看護学を専門としているので、市町村の健康日本21第二次計画の策定委員を始め、健康づくり推進員養成講座の講師、長久手市内の中学校での命の学習講座の講師等を通して、健康日本21及び健やか親子21の推進に関わらせて頂いております。また、県内の保健所及び市町村の保健師の人材育成に携わらせて頂くとともに、2012年度からは本学の卒業生で構成された「新任保健師学習会」を開催し、先輩も後輩も一緒に元気になれるようサポートしております。

今後も、愛知県の保健所・市町村等地域に出向くことを大切に、住民主体での健康づくり活動を支えるとともに、保健師の人材育成にも継続的に取り組み、地域社会への貢献に努めていきたいと思っております。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

大学の教員として、卒業生や実習施設の保健師と関わる中で、自らの専門性に悩み、現在及び今後の活動のあり方に不安を抱いているという声を多数聞きました。そんな折、関わりのある保健師達から、他市の保健師と交流を持てる機会が欲しいという要望を頂き、自主交流会を発足しました。参加メンバーは、様々な年代の保健師から構成され、保健師として日頃感じていることを自由に語り合える場としました。この時から、保健師が自分の成長を実感でき、仕事に対する自信を付けていけるための方策を探りたいという思いが強くなり、保健師の人材育成に関する研究を続けています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

大学は、社会と個々の学生たちとをつなぐ学習の基礎(根っこ)を築く場です。教授された内容のみを理解するのではなく、教授された内容をきっかけに知識を広げ、知恵を紡ぎ、応用する力が重要です。そのためには、「情報を正確に読み取る力」、「ものごとの論理の筋道を追う力」、「受け取った情報を基に、自分の論理をきちんと組み立てられる力」、「自分の頭で考え抜く力」を培っていきましょう。また、学習だけではなく、部活動・サークル、アルバイトなど大学生にしかできない経験も大切だと思いますので、自分から一歩前に踏み出し、様々なことに挑戦し、視野を広げ、自分自身を磨いていきましょう。



名城公園にて友人たちと食事(左から1番目)

新入学生ガイダンス実施

平成29年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部は4月5日（水）10日（月）、看護学部は4月4日（火）・5日（水）・6日（木）・7日（金）・10日（月）に実施されました。【写真】

各新入生からは、入学の喜びの表情が溢れていましたが、ガイダンスが進むにつれて、これから始まる大学生活への真剣なまなざしが見受けられました。

◆ 医学部ガイダンス概要

日	時間	内容	
四月四日 (火)	9:00	医学部のカリキュラムについて ・1学年次のカリキュラムについて ・6年間のカリキュラムについて ・進級上の留意事項について	
	10:30	授業、試験等の教務関係について	
	13:00	学生生活について	
	13:30	国際交流に関する説明	
	14:00	学生証配布、ロッカー案内 合宿研修説明 実習衣採寸・注文 実習用ズボン採寸・注文 教科書販売 聴診器注文	
四月六日 (木)		合同研修	
四月七日 (金)			
四月十日 (月)	9:00	基礎科学ガイダンス	
	10:30	防犯講習会 ・防犯講話 ・防犯実技 ・薬物講和	
		13:00	学生相談室紹介
		13:30	ハラスメント防止講演会
	14:00	健康診断	
	16:00	SNS講演会	

◆ 看護学部ガイダンス概要

日	時間	内容
四月四日 (火)	11:00	看護学部長・教務学生部長あいさつ
	11:10	教員紹介
	11:30	クラブアンケート
	11:40	集合写真撮影
四月五日 (水)	9:00	教務関係オリエンテーションⅠ (学則、履修規程、学習方法等)
	10:40	教務関係オリエンテーションⅡ
	13:00	教務関係オリエンテーションⅢ
	14:40	救命講習及び新入生研修 Ⅰ・Ⅱの概要説明
	15:00	施設紹介 ・愛知医科大学愛恵会等
	15:30	施設紹介 ・運動療育センター
四月六日 (木)	15:50	事務手続き及び連絡等
	9:30	救命講習 医科大学生として習得しておくべき心肺 蘇生術
	13:00	学生生活関係オリエンテーションⅠ
	13:30	学生生活関係オリエンテーションⅡ
	14:40	傷害・賠償保険等の説明
	15:10	健康管理
	16:10	総合学術情報センター利用講習会
17:00	学務情報システム説明	
四月七日 (金)	9:00	新入生研修Ⅰ 大学生としてのマナー 新入生研修Ⅱ 保健衛生・感染症について
	12:00	アドバイザーとの懇親会
	13:00	キャンパスツアー
		上級生との交流会
四月十日 (月)	9:00	実習衣採寸
	10:30	防犯講習会
	13:30	ハラスメント防止講演会
	16:00	SNS講演会



大学生としてのマナーを身に付けよう 新入生研修実施

本学では、医学部・看護学部ともに新入生を対象に、大学生としての基本的なマナーを学び、医療人としての心構えを身に付けることを目的として、毎年4月に新入生を対象とした研修会をカリキュラムに導入しています。【写真】

医学部 プロフェッショナル研修

医学部では、平成29年4月6日（木）・7日（金）の一泊二日で三河湾リゾートリンクス（愛知県西尾市）において、医学部1学年次授業科目「プロフェッショナルリズム1a」の一環として、医学生としての品位や品格、自ら学ぶ姿勢を身に付け、集団行動を通して、実践をためらう心理的抵抗（自分の殻）を打ち破り、これからの学生生活を円滑に過ごす基礎を築くことを目的とした新入生合宿研修を実施しました。

研修は、三宅養三理事長による「本学の歴史・使命・教育理念」の講演に始まり、佐藤啓二学長からの「医学生的心構えと大学の使命」の講演後、本学の臨床医学講座の教授3名による、各講座・診療科の内容や特色について講演する「愛知医科大学臨床系教授からのメッセージ」が行われました。立食形式の夕食では、岡田尚志郎医学部長を始め、基礎科学、基礎医学、臨床医学の教員と学生との距離を縮める良いきっかけとなりました。また、両日を通し学生のコミュニケーション能力やチーム力を高めることを目的としたコミュニケーション演習を行い、最後に演習の集大成としてチーム名、その由来、になりたい医師像、今後の学習課題について発表し合い、医学生としての決意を新たにしていました。また、発表内容で賛同の多かった3チームには、理事長、医学部長、医学教育センター長との豪華昼食券が贈呈されました。

合宿の締めは、内科学講座（肝胆膵内科）の中尾春壽教授（特任）のシュプレヒコールで参加者全員が身を引き締めて、2日間の合宿を無事に終えました。

看護学部 新入生研修

看護学部では、平成29年4月7日（金）体育館において、大学生として学習に臨む姿勢や態度、マナーなどを学ぶとともに、同級生、上級生、教員との交流を図ることを目的とした新入生研修が実施されました。

始めに、白鳥さつき看護学部長から趣旨説明のあいさつを受け、坂本真理子教授を始めとする教員から「大学生としてのマナーについて」や「保健衛生・感染症」などの講和を熱心に聞いた後、アドバイザーごとに分かれて、昼食をとりながらの懇談会に臨みました。アドバイザーの教員とは初対面であり、緊張した様子が伺われましたが、時間が経つにつれ、笑い声が聞かれ和やかなひとときでした。

午後からは、キャンパスツアーと題して、上級生とともに大学構内を見学し、学内の各施設について多くを知ることができました。その後、体育館に戻り大学周辺のスポット紹介があり、飲食店などのお店が紹介されました。

最後に、上級生からの話に加えて学生間の交流会が開かれ、貴重な情報を得る機会となりました。新入生にとっては、これからの学生生活を送る上で、非常に有意義な一日になりました。



IR 室 設 置

大学におけるIR (Institutional Research) が急速に関心を集めている現在、本学においても今後、IRを推進していくことが必要と考えられるため、大学の教育・研究活動の計画策定等の支援を行うことを目的として、平成29年1月1日付けで医学部にIR室（大学本館7階の医学教育センター内）が設置されました。主な業務内容は次のとおりです。

(1) 本学における教育・研究に関する学内外の情報収集及び分析

(2) 学生の学修動向、教育の成果等に関する調査の実施及び分析

(3) 情報の提供による教育及び研究の方策形成の支援

(4) その他、本学の教育・研究活動の活性化に関する事業の企画及び推進

また、IR室長には岡田尚志郎医学部長、専任教員として佐藤麻紀講師（平成29年4月1日付け）が就任されました。

情報セキュリティに関する講演会開催

平成29年3月9日（木）午後6時からマルチメディア教室において、全学を対象とした情報セキュリティに関する講演会が開催され、教職員44名が参加しました。

【写真】

講演会には、愛知県警察本部警備部警備総務課サイバー攻撃特別捜査隊の方々を講師にお迎えし、「標的型攻撃の現状と対策」と題して、大学や病院でも多発している標的型攻撃による不正アクセスや情報漏えい事件について、具体的な事案をご講演頂きました。スマートフォンやタブレットの普及により、メールやインターネットを利用する機会は多くなり、ウイルス感染や情報漏えいは、誰もが直面しうる事案です。これらのリスクを回避する方法や一人ひとりの気付きの重要性について説明があり、参加者はちょっとした不注意で起きるセキュリティ事故の重大さを再認識していました。



本学では、引き続き、情報セキュリティに関する啓蒙活動を実施し、情報漏えいが発生しないよう、教職員・学生等への意識啓発に努めることとしています。

篤志献体者に 文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体頂いた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

石原 都 殿	磯貝 信子 殿	岩月タミヘ 殿	梅田八代子 殿	江本 八郎 殿
小川 昌子 殿	勝 富枝 殿	加藤カズエ 殿	加藤すま江 殿	加藤 信輔 殿
神田 明 殿	熊澤 鈴子 殿	小酒井文子 殿	小島 竜子 殿	駒越 喬貞 殿
坂野あみ子 殿	下山 敏美 殿	高森 米 殿	田口美知子 殿	田澤 里子 殿
辻 健郎 殿	内藤 久吉 殿	長坂 忠行 殿	羽田野次子 殿	平林タカノ 殿
三輪 嘉夫 殿	望月ミスイ 殿	森 一郎 殿		

(以上 五十音順)

平成28年度実験動物慰霊祭挙行

平成28年度医学部実験動物慰霊祭が、平成29年3月1日（水）午後1時30分から実験動物供養塔前において、厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し参加者全員で黙祷が捧げられました。引き続き、岡田尚志郎医学部長から、瞑目した諸動物に対して、その尊い献身に感謝するとともに慰霊の辞として、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、佐藤啓二学長、佐藤元彦総合医学研究機構長、奥村正直動物実験部門長に続いて、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員や学生一人ひとりから白いカーネ



哀悼の辞を述べる岡田医学部長

ーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

防犯講習会・ハラスメント防止講演会開催

平成29年4月10日（月）午前10時30分から大学本館たちばなホールにおいて、医学部及び看護学部の新入生220名を対象に、愛知警察署生活安全課生活安全係巡査長の三浦佑紀氏を講師にお迎えし、防犯講習会が開催されました。【写真】

三浦講師からは、藤ヶ丘駅周辺で自転車の盗難が多く発生しており、空き巣もひとり暮らしのアパートが事件に遭っている等の説明及び注意喚起がありました。引き続き、DVD「～その指先が導く危険～晒される個人情報、リベンジポルノの危険」を鑑賞し、自分の周りには常に危険が潜んでいることを強調されました。

続いて、午後1時30分から21世紀職業財団ハラスメント防止コンサルタントの岩月律子氏を講師にお迎えし、ハラスメント防止の講演会が開催されました。

岩月講師からは、まず代表的な六つのハラスメント（セクシュアル、パワー、モラル、アルコール、ジェンダー、アカデミック）の基礎的な説明がありました。その後、アカデミックハラスメントについては、自分の加害者度を、また、パワーハラスメントについては逆に被害者度



を、チェックリストを使用してチェックし、その内容について丁寧な説明がありました。加えて、ハラスメントの被害にあっているときの対処法や、法的責任についての説明があり、参加した新入生は熱心に聞き入っていました。

この講演会で得た知識を活用して、ハラスメントのない大学生活を送ってくれることを期待します。

交通安全講習会開催

平成29年4月18日（火）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、愛知警察署交通課総務係警部補の山本憲一郎氏を講師にお迎えし、医学部・看護学部の学生を対象とした交通安全講習会が開催されました。

講師からは、愛知県は昨年も交通死亡事故が全国でワースト1位でしたが、スロー、ストップ、スマートの3S運動や夜間のハイビーム運動、自動車の全座席のシー

トベルトの着用等を強力に推し進めていること、交通事故は決して他人事ではないこと等の講和があり、引き続き、鑑賞したDVDでは、事故映像から危険の予測・回避を学びました。

受講した学生331名にとって、この交通安全講習会を通じ、交通安全に対する意識を常に高く保ち、一人ひとりが交通安全に努めてくれることを期待します。

寄附講座紹介講演会開催

平成29年3月6日（月）大学本館302講義室において、寄附講座紹介講演会が開催されました。

本講演会は、平成27年・28年度に医学部に新設された三つの寄附講座の概要、設置目的、教育・研究等の基本方針及び抱負などを学内外に広く周知することを目的として開催され、学内外から多数の方の参加がありました。

講演者及び講演内容は次のとおりです。



黒田教授



宮田教授（特任）



岩崎准教授

講演者		講演内容
講座名	氏名	
先端レーザー医学寄附講座 (平成28年10月1日設置)	黒田寛人教授	検査、治療及び創薬に貢献することを目的とし、レーザー物理のバックグラウンドを生かしたオリジナリティにあふれた最先端の医療、レーザー機器、分光法の開発・研究の紹介、及び医療研究者や技術者の養成支援について
地域医療教育学寄附講座 (平成28年11月1日設置)	宮田靖志教授（特任）	これからの日本社会に求められるのは地域包括ケアシステムの構築であり、その中で地域医療に貢献するプライマリケア医・総合診療医を養成するという本講座の使命について
腎疾患・移植免疫学寄附講座 (平成27年4月1日設置)	岩崎研太准教授	本講座は、「総合腎臓病センター」の一組織として、bench to bedの理念のもと、腎臓病をテーマとした臨床研究を推進するために設立されたことについて

* 講演順

国際交流



タイ国コンケン大学医学部教員来学

本学医学部では、平成23年からタイ国コンケン大学医学部と学術国際交流を締結し、相互に学生等の派遣・受け入れを行い、最大4週間の臨床実習にも参加しています。

この度、平成29年4月7日（金）には同大学医学部との交流事業拡大を目指し、医学部地域医療講座からSauwanan Bumrerraj講座長を始め、Arkhom Bunloet先生、Pattaranon Boonyaudomsart先生及びPornpawee Prukpitikul先生の4名が来学され、本学の教員との交流を行いました。

学長への表敬訪問や渡辺秀人国際交流センター長を始めとする関係教員との面談、学内の施設見学等を行い、短い時間ではありましたが、今後の相互の親睦と発展を確信できる有益な時間を過ごすことができました。更に、本院プライマリケアセンターの症例検討会にも出席頂き、両大学の関係講座同士において、診断技術の意見交換を行う良い機会となりました。

その後、学外の日本料理店にて夕食懇談会を開催し、日本料理を囲みながら相互の国の食文化等を始めとし、



コンケン大学教員来学

教育・研究以外の話題でも積極的にコミュニケーションを図ることができ、終始和やかな雰囲気の中で懇談会を終えることができました。

今後は、更に国際交流事業を充実させ、本学の教員及び学生が多様な異文化に触れる機会を拡大する取り組みを積極的に行っていく予定です。

国際交流



オウル大学教員来学

看護学部では、平成29年2月21日（火）から26日（日）までの日程で、学術国際交流提携校のオウル大学（フィンランドオウル市）から、Helvi Kyngäs氏（大学院看護学研究科長）とKristina Mikkonen氏（大学院看護学研究科講師）を招聘し、相互の交流を図りました。

今回の招聘では、教員・看護師・学生を対象とした3回の講演会を開催し、フィンランドにおける看護教育（実習教育と新人教育）の現状や看護師のキャリアアップ、大学院教育についてご講演を頂きました。また、教員との交流セッションを開催するとともに、本院や近隣施設の視察を行いました。

オウル大学と本学とは、教員の相互研修派遣を実施しており、今後の学術交流の発展に向けて大変有意義な招聘となりました。



理事長表敬訪問



学長表敬訪問

平成28年度第3回看護学部・看護学研究科FD開催

平成29年2月24日（金）看護学部講義室において、兵庫県立大学大学院看護学研究科長・教授の坂下玲子氏をお招きして、効果的な大学院での研究指導についての学びを深めることを目的として、看護学部・看護学研究科FDが開催されました。

効果的に指導する方法としては、まず、大学院生と難しさを共有すること、そして適切なリサーチクエストの設定が重要であると説明がありました。看護学研究では、量的研究とともに質的研究も多く行われているが、近年、複雑な看護現象を扱うのに適している質的研究が一般的になっており、リサーチクエストの設定には、大学院生の興味や課題など、個々のストーリーを読み込み、ともにストーリーを紡ぐことが重要であると解説されました。

研究は、そのプロセスにおいて教員と大学院生とが深く関わることになるが、その中で閉塞感や一方的な押し付けが起こることのリスクについて触れ、指導者として



ディスカッションする参加教員

常にサーチライトの役割を認識し、個々の興味や強みを引き出すことがより良い研究指導につながるとまとめられました。

FD後半では、参加教員とそれぞれの立場での指導の在り方についての意見交換を行いました。

看護学部FD委員会は、今後も教育改善に向けて、取り組んで参ります。

看護学部一日体験入学開催

平成29年3月23日（木）高校生を対象に看護系大学における講義を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的として、看護学部一日体験入学が開催されました。

当日は、76名の高校生が参加し、午前中の体験授業（テーマ：在宅看護の特徴と日常生活援助）では、緊張する中真剣な表情で話に聞き入っていました。

体験演習（テーマ：在宅看護で行う日常生活援助）では、在宅看護で行う清潔援助を体験しました。

患者さんの自立度や生活スタイルに合わせ、自宅や身の回りにあるものを創意工夫して、寝たままの態勢で手を洗うなど、患者さんの気持ちや大変さを体験していました。

昼食は、アシスタントを務める看護学部生と歓談しながら交流を深め、午後からはドクターヘリやドクターカーを見学しました。

参加した高校生からは、「貴重な体験ができ勉強になった。」、「在学生と話ができてとても良かった。」、「ドクターヘリを間近で見ることができて良かった。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日となりました。



在宅看護の演習を行う高校生



ドクターヘリ見学

平成29年度看護学部臨床教授等辞令交付式

平成29年4月13日（木）午前11時から看護部管理室において、平成29年度看護学部臨床教授等辞令交付式が行われました。【写真】

今年度は、臨床教授3名、臨床准教授8名、臨床講師1名が選考され、白鳥さつき看護学部長から辞令が交付されました。

看護学部では、平成20年4月から臨床教授制を導入しており、これは臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的とした教育制度です。

本制度においては、豊富な臨床実習指導経験と優れた看護実践能力及び教育能力を持つ看護職員に臨床教授等の称号を授与し、看護学部の教員とともに学生の指導に当たって頂きます。学生にとっては、丁寧な実習指導が受けられることはもちろんのこと、将来の目指す看護師像が明確になる機会になっています。今年度も看護学部



学生の約3分の2が本院に就職をしましたが、看護学部と看護部との一貫した教育体制の成果であると思われる。

看護学部では、今後も本院看護部との連携・協働を通して、豊かな人間性と確かな看護実践能力を持った看護職者の育成を進めて参ります。

愛知医科大学合気道部 合気道本部道場から感謝状受領

平成29年1月9日付けで、本学合気道部が合気道本部道場から感謝状を受領しました。

これは、医学医療を学ぶものとして学業に励みながら合気道精神に則り、日頃から鍛錬され部活動を通じて合気道の普及に貢献したことを評価頂いたもので、感謝状受領の背景には、指導頂いている合気練成会高柳道場（名東区朝日が丘）の先生方が本部道場へ本学の合気道部について報告し、感謝状対象として推薦頂いた経緯があります。

高柳道場からは、毎週有段者の先生方に稽古をつけて頂き、学生たちは合気道を楽しみながら心と体を鍛えています。合気道部では、練習の参加などは全て部員に任せており、試験や実習はもちろん兼部など各々の事情に合わせて、一人ひとりが自分でスケジュールを決めています。

もともとは少人数の合気道同好会として10年程前に発足しましたが、先生方の手厚い指導や自由な部の方針と雰囲気定着して部員が増え、部に昇格しました。現在は22名（医学部14名、看護学部8名）の部員が所属しており、試験や実習があるため、部員全員が集合することはなかなかありませんが、毎年10月に開催される愛知県合気道連盟主催の講演会に参加するなど積極的に活動をしています。

また、合気道の練習上の心得に「練習は常に愉快に実施するを要す」という言葉があります。部員たちは、練習を通して先生や先輩からこの心得を自然と受け継いで



武道場にて三宅理事長とともに記念撮影

おり、部員同士が一丸となって、日々楽しく練習をしています。

部員の皆さんからは「合気道部は、本学武道場で毎週火曜・金曜日に楽しく活動をしています。興味がある方は、一度練習に遊びにきてください。」との感想が寄せられ、同好会発足時から、学生とともに汗を流す外国語の久留友紀子准教授からも「学生たちの合気道が楽しいという気持ちが部を活発にしています。これからも学生をサポートしていきたい。」との感想がありました。

医学部学外体験実習体験記

愛知県内の心身障害者施設にご協力頂き、2月6日（月）から2月17日（金）にかけて医学部2学年次生が学外体験実習を行いました。心身障害者の人たちと接する初めての体験は、医学生に大きなインパクトを与えたようです。実習を終えた学生の感想文を紹介します。

利用者さんからの「ありがとう」という言葉

実習施設：刈谷市つくし作業所
2学年次生 山根 舞子

私は今回の学外実習で、刈谷市つくし作業所に伺いました。

この施設は、一般社会で働くことが困難な知的障害者の方が通い、社会参加と自立を目指し、自主製品の製作や受託作業を行うことにより、自活能力の向上を目的としています。

私は今回の実習で、初めて知的障害者の方々とコミュニケーションをとりました。実際にコミュニケーションをとる前は、会話が通じず、歩き回ったり、奇声を発しているイメージを持っていました。しかし、実際は人それぞれ障害の重さは違うけれども、会話ができ、自分の思っていることを言える方々でした。

実習が始まり、利用者の方々と初めて会ったとき、正直どうやって接すれば良いのか分からず、少し怖いと思いましたが、一緒に作業を行っていくうちに少しずつ話せるようになりました。休憩時間中には、騒いでいても作業中は真面目に取り組んでいて驚きました。また、施設の職員の方々が利用者さんを頻繁に褒めていたのが印象的でした。利用者の中には、一度その作業が嫌になってしまうと、座っていられなかったりするので、それぞれに合った仕事をしてもらっていると聞きました。職員の方は言うことを聞き入れられなくても、怒るのではなく促すような感じで接していました。

利用者さんが行っている作業の内容は、ハンドタオル、フェイスタオルやバスタオルなどを洗濯し、綺麗に畳む作業や、豊田市に近いこともあり、車の部品を組立てたり、アカパッケンという商品を作るといった作業があります。タオルを畳むという作業はあまり難しくありませんでしたが、車の部品である金属にゴムをつける作業は指の力が必要で、細かいところまで丁寧にやらなければならないので意外と難しかったです。私たちが行った時はお休みだったのですが、この作業を片手で行う左半身麻痺の方がいると聞いて驚きました。また、アカパッケンの製作も難しく、慣れるまでなかなか上手くできませんでした。

この実習を通して私が一番感動したことは、帰りの会の時に、利用者の方々が「ありがとう。」と言ってくれたことです。私たちが最後のあいさつをした後、施設長さんが利用者の方々に「質問がある人は手を挙げてくだ

さい。」と声を掛けると、たくさんの手が挙がりました。私は何か質問されるのだと思っていましたが、利用者さんたちは「作業を手伝ってくれてありがとう。良いお医者さんになってください。」と言ってくれました。私はこの言葉がとても嬉しかったです。

こういった機会がいままでなかったので、私は障害を持つ方々に対して間違ったイメージを持っていたことを痛感しました。皆さんは、私たちと少しだけ違うだけで、とても純粋な方たちなのだと分かりました。障害者であると言うと、受け入れてくれない病院があると施設長さんから聞きました。将来、私が医師になったときに適切に対応ができるように、また、周りに断るような医師がいれば、誤解していることを伝えることができるようになりたいと思いました。

この実習で、障害を持つ方々に対する理解を深めることができ、とても良い経験になりました。



ケース・ウェスタン・リザーブ大学短期留学体験記

看護学部では、米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学フランシス・ペイン・ボルトン看護学部と教員・学生の交流を含む包括的な相互交流を行っています。平成29年3月に、看護学部生5名が留学しました。短期留学を終えた学生の体験記をご紹介します。

Case Western Reserve University 短期留学を終えて

看護学部2学年次生 森島 彩乃, 3学年次生 伊神 凜名子, 池山 実怜, 藤田 奈那, 渡辺 明里
(留学時は2・3学年次生)

平成29年3月18日(土)から27日(月)までの10日間にわたり、私達はアメリカ合衆国オハイオ州にあるケース・ウェスタン・リザーブ大学(CWRU)フランシス・ペイン・ボルトン看護学部での短期留学に参加しました。今回の短期留学では、2,3学年次生の5名が参加し、看護学部の講義や演習、同大学の日本語学科の学生との交流会への参加、CWRUの看護学生と1対1での病院実習、ホスピスやがんセンターなどの医療福祉施設への訪問を行いました。

CWRUの講義や演習では、学生が自発的に質問や発言をして、先生の質問に迷わず答えるなどとても積極的であり、見習いたいと思いました。演習では、静脈注射を初めて行い、とても緊張しましたが、先生から親切に教えて頂き、良い経験になりました。

実習では、学生の知識・技術力の高さに驚きました。日本では、看護師免許を取得していない学生が投薬やカルテの記入を行うことは許可されていません。しかし、CWRUでは、学生が患者さんへの投薬やカルテの記入を行うことも可能で、一人で簡単な処置や入浴介助などの看護ケアも行っていました。また、バイタルサイン測定から患者さんの状態をその場でアセスメントし、その日の看護計画の立案、修正を行っている姿も見られ、高度な実践能力が素晴らしいと思いました。

施設見学では、三カ所の施設を見学させて頂きました。Seidman Cancer Centerは、待合室が吹き抜けになっており、明るく開放的な空間で患者さんの気持ちを和らげリラックスできる環境が整えられていました。また、待合室の壁には、がんが完治した人々の写真と言葉が飾られていて、治療に対して前向きになれるような配慮がされていました。その他にも、家族が宿泊してリラックスできる設備や治療の副作用で苦しんでいる患者さんがおしゃれを楽しめるようにウィッグやネイルを無料でできる部屋などがあり、患者さんや家族が安らげ、希望を持てる環境が整っていると感じました。

Hospice of the Western Reserveでは、ターミナルケアにおいては、患者さんの希望する最期を迎えることができるように患者さんの声に耳を傾け、その希望を支える看護が大切であるということを改めて学ぶことができました。このホスピスは、誰もがくつろげる大きなソファや暖炉のあるリビングがあり、酸素吸入コンセントの

ところが壁で隠してあったりして大きな家のような雰囲気、患者さんや家族が最期のときを安らかに過ごすことができるように色々と工夫がされていると感じました。ホスピスにおいては、患者さんの不安や恐怖心を少しでも取り除けるような環境作りも大切だと思いました。

McGregor PACEは、要介護者の方が自宅で可能な限り長く健康を保ち、尊厳や生活の質を維持できるように急性期、慢性期、介護を統合したケアを切れ目なく提供することを目標としており、様々な職種の方が連携・協働し、高齢者の方がレクリエーションや食事を楽しみ、リハビリテーションができる環境が整っていました。高齢者の方のQOL維持のためには、高齢者が自由に楽しめる環境を整え、切れ目のない支援を行っていくことが大切だと感じました。

今回の留学は10日間という短い間でしたが、CWRUの先生方、学生、各施設の方々が私達のことを温かく迎えて、親切にして下さったおかげでたくさんの貴重な経験をすることができ、とても充実した日々を過ごすことができました。今回の経験を今後の学習や実習に活かしていきたいと思います。



成人看護援助実習参加



English seminarの先生と

定年退職教授最終講義

今年3月で定年を迎えられた4名の教授の最終講義が大学本館たちばなホール及び看護学部棟N301講義室において行われました。

長年にわたり本学の発展に多大なる貢献をして頂き、また、本学の医学教育に対しご尽力くださいました先生方の講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。

ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介いたします。

内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）

今井 裕一 教授 1月26日（木）

【omnia vincit Amor 愛は絶対に勝つ】

今井先生は、平成15年1月にご着任以来、医学部学生を対象とした卒前教育、大学院での研究者の育成、腎臓・リウマチ等の専門医の育成を中心に、大変な熱意をもって教育・研究指導に当たってこられました。

また、内科学講座の体制を整え、日本内科学会、日本腎臓学会、日本リウマチ学会指導医・専門医として活躍されたほか、評議員も務めてこられました。

一方で、長きにわたって医学教育センター長として、また、平成26年5月からは医学部長補佐として、愛知医科大学の医学教育改革に着手されるとともに、平成31年度に予定する医学教育分野別評価受審に向けた組織づくり及びカリキュラム改革に尽力されました。

最終講義では、臨床研修医時代に難病患者さんから贈られた手紙に衝撃を受けたことが大学に戻り臨床の勉強をするきっかけになったこと、これまで長年にわたって従事された幾多の研究活動は、ある学生からの質問から、その後の研究のきっかけになったこと、日本腎臓学会での活動が教育者のネットワークやサポーター制度の確



立、ひいては学会の仕事をサポートできるようになったことなど、多くのデータや事例を用いてお話し頂きました。これらは、先生が挙げてこられた業績を伺い知ることができる大変興味深いものでした。

講義の最後には、愛と希望の両方がぶつかった所に人が集まることが決まっております、「愛知医科大学もomnia vincit AMU: (愛知医大は絶対に勝つ)」このスローガンで、今まで以上に素晴らしい大学にしてほしいと話され、講義を終えられました。

内科学講座（内分泌・代謝内科）

大竹 千生 教授 2月22日（水）

【いま翔び立つ次世代の内分泌学

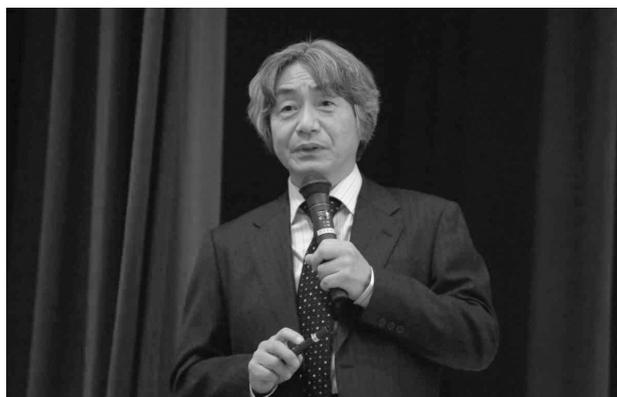
Endocrinology Gen・i・sys Next Soon!】

大竹先生は、平成4年4月に旧内科学第4講座にご着任以来、医学教育、臨床研究に従事し、大学病院で初めて低身長・成長ホルモン外来と骨粗鬆症外来を設立されました。全国の大学病院でも、これらの専門外来は少なく、本院の専門性の評価を高めました。また、学生の教育において、専門チューターなどを務め、医師国家試験の合格率向上に貢献、内科学講座の大講座制臓器別の編制に取り組み、本学及び内科学講座の発展に尽力されました。

一方、医学部学生部次長、国の定めた新臨床研修制度の下に設置された卒後臨床研修センター副センター長、栄養部副部長を務められる他、医学部倫理委員会委員長を務め、臨床研究の支援をされました。加えて、核医学センターの運営や大学院講義も担当し、アイソトープ利用の臨床研究の指導に当たられました。

更に、医療安全では全国に先駆けてPOCT機器の病院での設置を図り、教育病院としての評価に貢献されました。

最終講義では、先生が医師としてPatient firstを実現するためには、弱者に優しい医療の実現を目指す、全ての人に優しい医療が実現できる、それを実現するには、そこにいる医療者に優しい環境が必須であるというお話



しに始まり、内分泌学の道へ進まれた経緯、続いて、その後、長きにわたり取り組んでこられた「アイソトープの臨床応用」に関する研究を始めとする幾多の研究活動に関し、多くの資料・データや写真を提示して詳しく講義をして頂きました。

講義の終盤では、次世代の内分泌に必要なとされるBackgroundとして、難病医療、癌医療、遺伝医療等が重要課題となってくること、そして、愛知医科大学が充実すべきテーマとなっており、更に、他に先駆けて大きく進めることが可能であるとも示されました。

講義の最後には、これまで関わりのあった講座の方々への感謝の言葉とともに、愛知医科大学のますますの発展を祈念していると話され、講義を終えられました。

成人看護学（治療・回復過程）

臼井千津 教授 2月13日（月）

【大災害で鍛えられた私の看護観・看護実践】

臼井先生は、平成19年4月に成人看護学（治療・回復過程）の教授としてご着任され、10年間、学部教育や領域及び看護実践研究センターの発展に多大なる貢献をされました。

臼井先生と災害看護の出会いは、平成7年阪神・淡路大震災の時で、先生ご自身も被災され、混乱の中、災害派遣・ボランティアナースへの活動期間や活動場所の調整、派遣先の情報提供、アクセスの方法、宿泊の情報提供、苦情対応等の支援をされました。この実践を通して、被災者の健康ニーズを満たすことや、人道支援活動の展開を強く強調され、在職中に発生した国内外の大災害について、災害現場で支援をされた貴重な体験談なども交えてお話がありました。また、支援と同時にニーズ調査を行い、災害現場から発信される課題や減災のため備えの重要性を語られ、看護の役割や看護学部における災害の社会貢献の検討、避難所や暮らしの支援などの課題を提示されました。

看護が災害時のリーダーシップを取り、活動支援することの大切さや教育の立場から支援する意味についても



お話しがあり、看護学部の担う大切なメッセージを頂きました。

最後に、災害現場で出会った多くの方々、教育現場での恩師や学生、私たちへの感謝の気持ちを述べられ、講義を締めくくられました。

災害の体験は、臼井先生の看護への原動力であり、災害現場で実践された経験を交えながらの講義は、看護に対する臼井先生の熱い思いに溢れ、深い感銘を受けました。

参加した教員及び学生は臼井先生との別れをいつまでも名残惜しんでいました。

小児看護学

下村明子 教授 2月13日（月）

【看護の道を歩んで —今 振り返り思うこと—】

下村先生は、平成26年4月に小児看護学領域の教授としてご着任され、3年間という短い期間でしたが、小児看護学領域を中心に学部教育・学部運営（教授会、教務委員会、広報委員会、地域の子育て支援活動等）に貢献されるとともに、ご自身の研究に関しても多くの活躍をなされました。

最終講義では、65年間の歩みとして、進学先の一つとして選択した看護への道であったが、看護学校での恩師や友人たちとの出会い、看護師としての患者さんや家族との出会いにより、多くの学びと同時に看護の楽しさを知ることとなり、ずっと看護に携わっていきたいという思いに至ったことを話されました。また、新人看護師として臨床に出て、まもなく不慮の事故により長期の入院を余儀なくされ、やっと臨床への復帰が叶うも入院前のように臨床で働くには無理があり、恩師に導かれ、看護教育の道に進まれることとなった経緯を話されました。

看護教育の始まりは、家庭看護教師としてのスタートで、その後、医師会の看護専門学校を経て、大学教育に



携わられ、現在までご活躍されました。研究分野においては、ロールレタリング、小児の睡眠に関する研究を続けられ、2014年には、アジア未来会議にて最優秀論文賞を受賞されました。特に、小児の睡眠の研究は、今後も取り組んでいきたいとお話をされました。

最後に、“今、振り返って思うこと”は、人との出会いにより、支えられ導かれてきたこと、決して一人ではここまでやってくることはできなかった、出会った全ての方に感謝を伝えたいと謝辞が述べられました。

—退職を迎えて—

“長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力頂ける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待いたします。



今井 裕一 先生
(内科学講座 (腎臓・リウマチ膠原病内科)・教授)

定年退職のあいさつ

平成15年1月に秋田大学から着任し、平成29年3月31日を持って、愛知医科大学を定年退職することになりました。大過なく退任できることは、皆さまのご協力とご支援の賜物であると深く感謝致しております。

共用試験 (CBT, OSCE) の開始、臨床研修医制度改革や今後の国際認証問題等の医学教育の転換期に当た

り、初代と第4代の医学教育センター長を通算7年間にわたり務めました。また、新病院建設と移転の時期には、副院長としてサポートして参りました。更に、14年3か月の間には、約50名に及ぶ若い医局員と一緒に生活をし、各人の目標である専門医あるいは医学博士号を取得することができたことは、これ以上の喜びはありません。

最終講義でも話しましたが、「愛」と「希望」が一緒にある場所には人は集まり、繁栄します。今後とも愛知医科大学がますます発展し、社会に貢献できることを祈念しています。

長い間、皆さまに大変お世話になり、ありがとうございました。



大竹 千生 先生
(内科学講座 (内分泌・代謝内科)・教授)

愛知医科大学における教育と臨床について求められるモチベーション

平成4年に本学へ赴任した時の医師国家試験合格率は下位に低迷していました。原因は新設医科大学なので、教員は他大学出身で当事者意識が乏しいこと、研究論文至上主義で臨床や教育が軽視されていたことです。状況を改善するために当時の祖父江逸郎学長と医学部父兄後援会に支援して頂き、卒業生の講師の有志と「全員が合格」という考えを共有し、連日学生の勉強の相談に広く対応して、平成12年(2000年)の国試では、全国の平均

合格率が79.1%の中で本学は現役合格率が93.8%と私立医科大学で2位となり、大学全体のモチベーションが向上しました。

医科大学の教育の基本は、実際の疾患を診る臨床で、多様な内分泌疾患を「診断」することを常に開拓し、その結果、広域的に専門性を求めた患者さんが多数来院し経営環境にも良い影響を与え、全国的にも誇れる医学教育に最適な内分泌疾患の多様性、臨床教育環境を完成しました。

今後は、本学の卒業生が指導者となり、後輩である学生に専門性の高い疾患の実践教育を継続し、更に医師国家試験の合格率は補助金など多額の税金が投入された医科大学の公的な義務遂行能力として評価されますので、卒業生全員合格を達成し、愛知医科大学を全国レベルへ高めてください。



下村 明子 先生
(小児看護学・教授)

退職を迎えて

私は、縁あって愛知医科大学看護学部にて2回お世話になりました。1回目は、新病院の新築を目の前にして親の介護のための離職でしたが、2回目は立派な新病院移転という時でした。

この3年間は、色々な意味で充実しており、特に1年目に行かせて頂いたフィンランドのオウル大学との学術交流では、研究テーマである「発達障害の睡眠」をより深めることができました。

短い間でしたが、多くの皆さまにお世話になりながら、愛知医科大学看護学部で無事に定年を迎えることができましたことを深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

愛知医科大学の益々のご発展と、皆さまのご健康とご多幸をお祈りしつつお別れいたします。



秋田 高典 さん
(医事管理部・部長)

38年間、多くのことを経験させて頂き、育てて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。特に新病院建設は思い出が深いです。

愛知医科大学の更なる発展をお祈り申し上げます。



寺沢 栄一 さん
(臨床工学部・技師長)

病院で働き始めて38年、臨床工学部の設立や新病院建設にも加わり、様々な経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。また、再雇用で病院に貢献できることとなり、嬉しい限りです。



高木三保子 さん
(医療安全管理室・副室長)

立石池の桜が私の背丈もなかった頃から41年。無事にこの日を迎えられたのは、ともに過ごして下さった皆さまの温かいご指導のおかげと心から感謝しております。大学の益々の発展を祈念致します。



鈴木 昌代 さん
(看護部・看護師)

多くの方に支えられ、無事定年を迎えることができました。

皆さまの協力があったからこそ、25年間働くことができ、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



岸田美代子 さん
(看護部・看護師)

多くの方々に支えられ無事定年を迎えることができました。長い間色々ありがとうございました。



南 三和子 さん
(看護部・看護師)

この度、3月31日で定年を迎えることとなりました。これまでに多くの方の協力があり、やってこられることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、愛知医科大学病院の更なる発展をお祈り申し上げます。



石塚美津子 さん
(看護部・看護師)

愛知医科大学看護専門学校の卒後から、定年まで愛知医科大学病院で看護に携わってこれたのは、今まで多くの方々の温かい支援があったおかげだと心から感謝申し上げます。

卒後臨床研修評価で認定

平成29年3月3日（金）NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価が実施されました。本院は平成25年から受審しており、今回で3回目です。

臨床研修評価は、医療の質の改善と向上を目指すため、研修プログラムの評価や研修医育成等を行い、公益の増進に寄与することを目的として実施されています。

当日は3名のサーベイヤーにより、JCEPの定める基準に達しているかの確認が行われました。書面調査に始まり、羽生田正行病院長を始め、春日井邦夫卒後臨床研修センター長や北川好郎副センター長、看護部長などコマメディカルの責任者が同席の合同面接調査、病棟やプライマリケアセンター、診療情報管理室や患者相談窓口、卒後臨床研修センターなどの部署訪問、サーベイヤーから研修医や指導医へのインタビューなどが行われ、審査



の結果、本院は「研修医の満足度が高い」病院として、認定期間4年（平成29年5月1日～平成33年4月30日）の評価を得ました。

今後も改善を継続し、更なる質の向上を計り、研修医や学生から選ばれる病院を目指していきます。

卒後臨床研修修了証授与式挙行

平成29年3月13日（月）午後6時から大学本館701会議室において、卒後臨床研修修了証授与式が挙行されました。【写真】

式は、羽生田正行病院長を始め、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長、春日井邦夫卒後臨床研修センター長及び各副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

初めに、春日井センター長から「2年間の臨床研修で、社会に貢献できる立派な医師に成長してくれました。今後の更なる飛躍を期待しています。」と告辞があり、各出席者からの祝辞の後、センター長から一人ひとりに修了証が手渡されました。

今回修了した26名（研修医24名、研修歯科医2名）の



うち24名は本院の専修医として、専門医や学位取得を目指すこととなります。本院での臨床研修医として修得した知識、技術及び経験を生かし、各々がより一層精進することが期待されます。

若葉ナース卒業式挙行

平成29年2月16日（木）レストランオレンジにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。【写真】

これは、平成22年度から毎年開催しており、本院に入職した新卒看護職員が1年間の成長を振り返るとともに、指導に当たった先輩たちと互いに成長を祝う会です。

国家資格を取得し、初めて本院に入職する新卒看護職員を「若葉ナース」と呼び、名札に初心者マークを付けていますが、この式をもって初心者マークから卒業します。

式では、小池三奈美看護部長から新しい名札を渡されるとともに、新人教育担当者（新人教育の責任者）へ労いの言葉をかけられました。また、若葉ナース自身が、自己の1年間の振り返り、「たくさんの学びがあり、困



難を乗り越えて成長した。」と、先輩や仲間への感謝の気持ちをメッセージとして届けました。

大学病院 ～新センターのご紹介～

救急診療部

救急診療部・部長 加納 秀記

本院に平成29年3月1日付けで「救急診療部」が設置されました。

本院では、新病院建設を契機に救急車の搬入口、初期治療室、プライマリケアセンター診察室・処置室等の初期治療への対応施設を始め、救急用の放射線検査室、CT室、MRI室を始め、血管内治療センターなど最新の医療機器を整備し、更に救急初期治療部門から中央手術部、EICU、HCUへの直結エレベーターも備えています。

救急診療部は、これらの設備を十分に活用した救急医療を行い、高度医療を更に充実・発展させ、地域医療連携の充実を図り、1・2・3次救急を救命救急科や各診療科と連携し、本院における救急診療全体を管理運営していきます。

その他にも、卒前教育や卒後教育にも努め、後進の育成にも努めていきます。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンター・部長 森 直治

本院に平成29年4月1日付けで「緩和ケアセンター」が設置されました。

緩和ケアは「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家族のQuality of Lifeを改善する取り組みである」とWHO（世界保健機関）によって定義づけられ、わが国では平成17年にがん対策基本法が施行されて以降、がん対策の重点課題となっています。また、緩和ケアはかつて、抗がん剤治療が無効となった時から受けるケアと

考えられていましたが、現在では、がんと診断された時から受けるべきケアとなり、早期から手術や化学療法等のがんの治療と並行して緩和ケアを受けると、予後やQuality of Lifeの向上が期待できることが科学的にも明らかにされています。

本センターでは、緩和医療専門医、精神症状の専門医、認定看護師、薬剤師など多職種からなる緩和ケアチームが中心となり、栄養やリハビリテーションといった各部門と連携し、迅速かつ質の高い緩和ケアを本院に通院中、入院中の患者さんに提供して参ります。

脳血管内治療センター

脳血管内治療センター・部長 宮地 茂

本院に平成29年4月1日付けで「脳血管内治療センター」が設置されました。

血管内治療は観血的な直達手術に比べ、体に優しい低侵襲治療として注目され、近年その需要が各領域で急増しています。本センターでは、脳と頭頸部の血管病変に特化したカテーテルインターベンションを行う専門部門として、24時間体制で急性期脳梗塞治療を行う他、関連

診療科間及び病診・病病連携を通じて、治療困難な症例の積極的な受け入れを行います。

更に、教育・研究機関としての大学の使命を果たすべく、新しい機器開発、臨床データに基づくリサーチ、専門医、指導医の育成にも力を注ぎ、本センターが愛知県の脳血管内治療の中心となるべく、スタッフ一丸となって邁進して参ります。

新規採用医師ガイダンス

新規採用医師ガイダンスが、平成29年4月3日（月）に開催されました。対象者は4月1日付け新規採用医師、帰局医師及び新規採用臨床研修医で計97名が受講しました。

このガイダンスは、医療安全を始めとする、主な院内ルールの周知徹底を目的に開催しており、羽生田正行病院長による「辞令交付」と「病院の概要及び経営方針」の説明に始まり、各部門の責任者から、院内主要部署の

業務内容、救急医療体制、医療安全管理、感染予防対策、プライマリケアセンターの役割などについてのガイダンスが集中的に行われました。ガイダンスの内容は、日常の診療に直ちに反映されるものばかりであり、参加した医師は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に入職する医師については、今回の講義内容を録画したDVDを視聴することにより、ガイダンスに充てることとしています。

臨床研修医ガイダンス開催

平成29年4月1日（土）から7日（金）まで、新人研修医20名及び研修歯科医3名を対象に、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての臨床研修医ガイダンスが開催されました。

春日井邦夫卒後臨床研修センター長及び北川好郎副センター長から、医師としての心構え等についての話から始まり、3月まで本センターに在籍していた先輩研修医からの初期研修の秘訣や電子カルテの操作方法、除細動器等の実習、BLS（一次救命処置）研修で、常に先輩医師から後輩医師へ手助けしたり、質問に答える、屋根瓦方式の指導を行いました。

最後に春日井センター長から、臨床研修医一人ひとりに臨床研修許可証が手渡され、6日間のガイダンスが終了しました。このガイダンスの内容は、参加した臨床研修医の方々にとって、将来必ず役立つものと期待されます。



研修をスタートさせた臨床研修医23名

詳しくは、卒後臨床研修センターホームページでも紹介しています。

ASGN・ラダー認定証交付式挙行

平成29年3月29日（水）病院長室において、平成28年度ASGN（Aichi Medical University Hospital Super General Nurse）、マネジメントラダーレベルⅣ（MIV）の認定証交付式が執り行われました。【写真】

ASGNは、看護部キャリア開発システムにおいてジェネラリストレベルⅣ（特定の看護分野に関わらず、どの対象者に対してもその場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者）の実践能力を認定された看護師で、新たに1名が認定され院内に4名が在籍しています。

また、平成28年度は看護管理者のラダー（マネジメントラダー）を導入し、MIVは「社会・看護の動向を捉え、発展的に看護管理を実践するとともに看護管理分野において指導的な役割ができる」として認定された師長です。

ASGN、MIV師長は、羽生田正行病院長、小池三奈美看護部長から認定証、名札を受け取り、「今後の活躍に期待します。」と激励されました。

ASGN、MIVは今後、臨床教育者（Clinical Educator）として、部署の指導はもちろん看護学部生の臨地実習指導、看護教育委員として院内研修の企画などにも携わります。



ASGN、MIVの皆さん

ASGN 西尾智子看護師（14B）

MIV 石橋ひろ子師長（院内移植コーディネーター）

神原 和代師長（看護キャリア支援室）

坂田久美子師長（EICU）

小林 美和師長（医療安全管理室）

医療安全管理室

インシデント報告を強化

医療安全管理室では、平成29年1月をインシデント報告強化月間に指定し、全職員からの医療安全報告を推奨しています。期間中には、全365件のレポートが提出され、内訳は看護師から293件（82.3%）、医師から36件（9.9%）という結果でした。

提出件数が多かった卒後臨床研修センター、10A病棟、7A病棟、小児科に対しては、平成29年2月7日（火）に開催されたセーフティマネージャー会議で表彰が行われました。【写真】

インシデントレポートは、年間報告件数が病床数の5倍（本院の場合、年間4,500件）必要とされています。また、医師の積極的な報告が推奨されており、全報告件数の10%を超えることが目標とされています。

本院の問題点を改善していくためには医療安全報告は



不可欠であるため、今後も全職員のご協力をお願い致します。

私立医科大学病院

医療安全相互ラウンドを実施

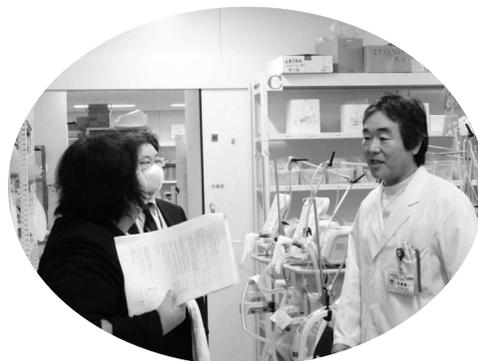
私立医科大学病院協会では、各病院が他院の見学・評価を行うことにより、安全対策を強化し、改善につなげることを目的として、平成18年から医療安全相互ラウンドの実施を指示しています。

平成28年度は、平成29年2月17日（金）午後1時30分から午後4時30分まで、聖マリアンナ医科大学病院の医療職員の方々が来院され、審査をして頂きました。【写真】

当日は、高木三保子副室長（医療安全管理室）が本院の医療安全体制を自己評価表に基づいてプレゼンを行った後、実際に9A病棟、EICU、内視鏡センター、救急外来、薬剤部、臨床工学部を見学され、次のような講評を受けました。

- 患者移動が横動線となり、病院が患者目線を重要視した建物であることに感銘を受けた。
- 外来患者用のNAVITが驚きの性能で、患者が受診しやすい環境であることに加え、患者誤認も発生していないとのことで、素晴らしいという言葉に尽きる。
- 専任の医師が死亡例をオンタイムでチェックしており、申し分ない。
- 薬剤部への入り口のセキュリティに加え、中の専門室にも二重のロックがあり、驚嘆した。
- 死亡例報告について、看護師長から提出をうけているが、診療科部長の関与が少ないように感じる。診療科部長の責任で行われることが望ましく、医師からの報告数の増加を願う。
- DNARの指示書は、医療安全だけでなく、臨床倫理の部門の関与が必要である。

その他、見学した部署への細やかな指摘を頂き、羽生田正行病院長からは改善に向けて前向きに努力していきたいとあいさつがありました。



医療安全講演会開催

平成29年3月15日（水）午後5時30分から大学本館たばなホールにおいて、医療安全講演会が開催されました。【写真】

講演会は2部構成で行われ、第1部では、医療安全管理室の高木三保子副室長から、「本院の医療安全の歩み」と題して、医療安全管理者として医療安全体制を築いてきた道のりを実際の事例を挙げながら講演がありました。

続いて第2部では、同室の児玉貴光副室長から、「今後目指すべき医療安全体制」と題して、医療安全に対する職員の意識調査の結果を基に、今後目指すべき医療安全体制について講演がありました。

医療安全管理室では、医療安全体制を更に強固なものにするための方策を今後も実施していきます。



看護部 海外(ロサンゼルス)看護研修プログラム実施

医療・看護を取り巻く環境は大きく変化しています。看護部では、海外の医療現場を体験し、看護職者として個人のスキルアップと広い視野に立って医療を見つめる機会を提供することを目的として、平成26年度から海外看護研修プログラムを実施しています。

本院からは、これまでの3年間に12名のスタッフが同プログラムに参加しました。他の私立大学病院の方々とともに、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにある病院を視察し、米国で活躍するNP（診療看護師）、CN（認定看護師）らの講義を受けるなどの交流を深めました。

プログラム参加者からの日本と米国における医療現場の違いについての学びや気づきを紹介します。

平成26年度（前期） ※後期は参加なし

6A病棟 高橋みどり主任

新病院が開院してから、第1回として海外研修プログラムに参加させて頂きました。NPがとても大きな役割を果たしていること、米国の保険適応の制度の違いでの入院期間の短さなど、とても衝撃的なことばかりでした。

他院の参加者の方たちとの交流もすごく楽しい時間でした。この研修に参加できたことは、私には大きな宝物となりました。ありがとうございました。



10B病棟 岩田純子看護師

ロサンゼルス研修の第一回目に参加させて頂きました。本院にもNPが4名活躍されていますが、米国ではNPが開業したり、診察、診断したりと医療制度の違いに驚かされました。また、一緒に研修に参加した他の私立大学病院の看護師たちとの交流は、自分自身の視野を広げる貴重な経験となりました。このような参加の機会に感謝致します。



6A病棟 壬生弘美看護師

平成27年2月に行われた研修に参加させて頂きました。米国の医療についての講義や視察はとても興味深く、また、他院から参加された方との交流もあり、楽しい研修でもありました。そして、この刺激によって、今後も自分の看護を深められるように頑張りたいと思えた研修でした。貴重な経験をさせて頂き、感謝しています。



リハビリテーション外来 押上幸紀看護師

第一回海外看護研修に参加しました。現地では、多くの看護スペシャリストが活躍していましたが、高い機動力と専門性を活かした連携は、とても印象に残っています。また、日本的な感性である「細やかさ」は、改めて気づかされた日本の看護の強みとして、大切にしたいと感じました。このような貴重な機会を頂き、心より感謝致します。



平成27年度（前期・後期）

HCU病棟 松永和子師長

「NPは、急患の診察をしていますので少しお待ちください。」日本人医師のクリニックを訪れた時の医師の言葉です。米国のクリニックでは、NPが診察も処方も行っていました。様々な場面で日本との違いにとっても驚きましたが、米国の病院を見学したことで日本の良さも再認識することができました。



救急外来 中井久仁枝主任

四病院の視察とNP、CNの講義を受け、参加した私立大学病院の看護管理者との意見交換の機会を頂きました。文化や医療保険制度の違いから、病院の機能の違い、細分化・専門化する医療従事者を実際に見ることができました。今回の研修で、日本の看護の良さを再認識するとともに、更に良い看護が提供できるような管理者の視点を学ぶ機会となりました。



救急外来 宮澤恭子主任

海外研修では、日本と米国の文化や医療制度の違いを知ることができました。複数の病院を見学し、効率的に業務整理がされていると感じるとともに、日本の看護は患者に寄り添う細やかな看護が提供されていると気づく機会にもなりました。また、教育体制が充実しており、看護の質の維持・向上の為に継続教育の重要性を感じる研修でした。



8A病棟 柴田裕紀主任

日本と海外との医療の現場の違いだけでなく、保険制度や教育システムの違いを学ぶことができました。進んだ医療現場で活躍するNPの存在は、今後日本の看護が求めるべき専門分野の必要性を深く感じさせ、自己の能力向上に対する意識の高さも知ることができました。同時に日本の看護師の質の高さや深い看護の精神の大切さを改めて感じる事ができました。

私たちが働く現場として、また最良な医療を受けられる場所として、この研修での学びを役立てていきたいと思えます。



平成28年度（前期・後期）

GCU病棟 竹島雅子主任

LA研修へ参加させて頂き、見学で訪れた医療施設の環境だけでなく、現場で働く看護師の様子を直接見て、聴いて、感じて学ぶことができたことは、私にとって大きな収穫でした。米国で活躍する看護師の皆さんが、看護の仕事を積極的に他職種へ主張し、業務と責任を担い自分たちの看護を誇らしく語る姿が、とても印象的でした。



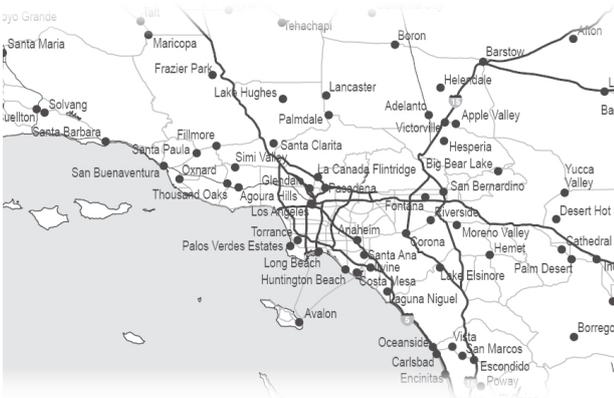
看護部 小池三奈美部長

米国のマグネット認証病院2施設と地域の病院で研修を受けました。日本から私立大学6病院の看護部長が参加し、米国の看護部長と医療情勢、病院経営、看護管理について意見交換する機会を得ました。全米第5位に評価されたUCLAメディカルセンターでは、看護の質評価について語り合い、日本の看護を振り返る貴重な機会となりました。



救急外来 高柳佳弘看護師

ロサンゼルスでの研修は、米国の医療の現状と様々な病院の様子を学ぶことができました。また、それぞれの国の特徴を踏まえて、医療・看護のあり方を考えることによって、日本の医療・看護における素晴らしい点と課題について考えることができ、有意義な研修となりました。



8B病棟 佐藤陽子主任

後期でのロサンゼルス研修に参加しました。兵庫医大、福岡大、金沢医大、藤田保健衛生大から計11名の参加がありました。研修では、日米の医療制度との差を学びつつ、オバマ政権からトランプ政権へ移行した米国の現状と日本に生まれた幸せを感じることができました。また、他病院から参加の方と同室になることで親交を深めることとなり、別便での帰国を見送るときは肉親との別れのようなさびしい思いをしました。公私ともに実りの多い研修となりました。



メディカルクリニック 平成28年度防災訓練実施

メディカルクリニックでは、愛知医科大学メディカルクリニック消防計画に基づき、平成29年3月10日（金）に平成28年度防災訓練を実施しました。【写真】

南海トラフ地震でマグニチュード9.0、名古屋市東区で震度6強の地震を観測し、本クリニックの建物及び設備を含む多くの医療機関が被災した状況を想定した訓練では、クリニックの職員が円滑な初動対応を行うための手順を確認しました。

訓練前半は、模擬患者役の職員に対して安否確認及び避難誘導訓練と重症患者を想定した人形を用いた担架での救出救護訓練を実施するとともに、非常時における体制を確立するため災害対策本部を設置し、適切に指揮命令系統が機能することを確認しました。訓練後半では、院内での火災発生時に迅速な初期消火を行うため、消火栓・防火扉の操作方法の講習会を開催し、実際に消防用ホースを用いた模擬消火訓練を実施しました。

訓練後の検証会では、参加者から全館放送が聞き取りづらかった等の意見が挙がり、新たな課題が見つかりました。こうした課題を解決し、災害発生時に職員が適切で円滑な対応ができるよう、今後もより一層実用性のある訓練の実施に努めて参ります。



災害医療研究センター 防災リーダー養成講座で出張講演

平成29年3月4日（土）午前10時から長久手市役所西庁舎3階研修室において、長久手市南小学校区自治会連合会主催の防災リーダー養成講座が開催され、災害医療研究センターの中川隆教授と小澤和弘助教が「大規模地震における医療と救護」と題した講演を行いました。

近年、東日本大震災や熊本地震などの大規模震災が多発しており、南海トラフ地震の備えに関心が高まる中、昨年度に引き続き、同小学校区自治会の要請を受けて、同講座が開催されました。

当日は、各自治会会長を始め、防災委員など約50名が参加され、中川教授からは、大規模災害に関する歴史や社会情勢の動向についての解説がありました。その後、小澤助教から災害に遭遇した際の行動について動画を交えながら説明があり、参加者は熱心に聴講していました。



講演する中川教授

災害医療研究センターでは、今後も地域住民の方々への災害医療に関する教育を積極的に行って参ります。

運動療育センター講演会開催

平成29年3月11日（土）大学本館たちばなホールにおいて、運動療育センター講演会が開催されました。【写真】

講演会に先立ち、keiko&Kojiさんによるスペシャルライブが披露されました。プロ歌手の素晴らしい歌声とNHKのど自慢で活躍するギタリストの演奏は講演会に花を添えました。

続いて、講演会では、VR（バーチャルリアリティ）の研究で世界的に有名な東京大学工学部教授の稲見昌彦氏を講師としてお招きし、“超人のレシピ：人間拡張工学とその展望”をテーマに、最新のVR技術がどこまで進歩しているかを分かりやすく、具体的な事例を挙げながら楽しくお話をしました。

客席では歓声が上がったり、講演内容を熱心にメモされる方が多く、非常に充実した時間を過ごされました。

今回も、老若男女を問わずたくさんの方々にご参加を



頂き、盛会のうちに終了しました。

本センターでは、これからも多くの方々に関心を持って頂けるテーマを中心に調査研究を進め、地域の方々の健康づくりに少しでもお役に立てるように努めていきます。

図書館利用講習会開催

平成29年3月29日（水）午後5時30分からマルチメディア教室において、総合学術情報センター主催の図書館利用講習会「正しく扱う研究指標：被引用数・インパクトファクターから丁寧に」が開催され、教職員10名が参加しました。【写真】

講習会には、Clarivate Analyticsの波多野薫氏を講師にお迎えし、今日の研究分析のトレンドが、分野や出版年を越えた比較が可能になるよう絶対値の分析から相対値での分析が主流になってきている現状やImpact Factor やh-index、世界のTop 1パーセント論文といった指標について解説頂きました。

また、Clarivate Analyticsが提供しているWeb of Science、それを元に様々なデータを集計し提供しているJournal Citation Report、Essential Science Indicatorsの利用方法についても説明がありました。



総合学術情報センターでは、学内における研究業績をまとめ、研究業績に関わるレファレンスも行っております。今後も、定期的に講習会を開催し、研究者のサポートをしていきます。

感染症科 三嶋廣繁教授 上原記念日本嫌気性菌感染症学会奨励賞受賞

感染症科の三嶋廣繁教授【写真】が、平成29年3月4日（土）じゅうろくプラザで開催された第47回日本嫌気性菌感染症学会総会・学術集会において、上原記念日本嫌気性菌感染症学会奨励賞を受賞しました。

同賞は、レフェリー制度が確立している雑誌に英文で発表された論文（原則として原著論文）に対して授与されるもので、三嶋教授が発表した「Clinical characteristics associated with mortality of patients with anaerobic bacteria. Anaerobe 2016; 39: 45-50.」が嫌気性菌感染症学の発展に大きく貢献し、学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた三嶋教授から「嫌気性菌感染症に関する診療及び研究は、本院感染症科の診療及び研究の一つの柱となっている。私は、日本嫌気性菌感染症学会の理事

長を拝命しているが、これも教室の診療、研究が評価されていることによると確信している。本論文は、日本の嫌気性菌菌血症の疫学を明らかにした代表的な論文であり、すでに欧米でもしばしば学会等で引用されている。今回の受賞は、私個人に与えられたものではなく、教室に与えられた荣誉であると考えており、大学院生を含めた教室員に改めて感謝の意を表したい。」との感想がありました。



脳神経外科学講座 竹内幹伸講師 第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会 English Presentation Award 受賞

脳神経外科学講座の竹内幹伸講師【写真】が、平成29年4月13日（木）～15日（土）ロイトン札幌・さっぽろ芸文館で開催された第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会において、English Presentation Awardを受賞しました。

これは、同学会のEnglish Presentation Sessionで発表する演者の中から、英語抄録内容・発表能力などを国際委員会が総合的に審査し優秀と評価した主演者に授与されるもので、竹内講師が発表した「A double blind randomized trial of vancomycin powder into operative field for thoracolumbar fusions.」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた竹内講師から「長久手から世界に情報発

信するという目標の足がかりになったと思います。本研究は、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からの研究助成がなくては不可能でした。愛恵会の皆さま、そして手助けして頂いた神谷光広先生、若尾典充先生、平澤敦彦先生、薬剤部の皆さん、医局員の皆さん、ありがとうございました。」との感想がありました。



医療福祉相談部 小堤歩主任 認定社会福祉士（医療分野）取得

医療福祉相談部の小堤歩主任【写真】が、認定社会福祉士（医療分野）を取得しました。

「認定社会福祉士」制度は、2007年の社会福祉士法改正時に衆参両院の付帯決議によって、高度な知識・技術を兼ね備えた社会福祉士の養成を目的とし創設された認定制度で、社会福祉士取得後5年以上及び認定分野における2年以上の実務経験や定められた研修を受講し、認定社会福祉士認定・認証機構の審査に合格することが求められています。

資格を取得した小堤主任から「道勇部長、村居技師長よりご指導頂き、認定社会福祉士（医療分野）の認定審

査に合格することができました。社会的援助ニーズが多様化し、医療分野における社会福祉士の相談援助も複雑・困難化していますが、今後とも福祉専門職として精進して参ります。」との感想がありました。



医学部学生が日本解剖学会全国学術集会において学会発表 「献体協会賞」と「優秀発表賞」をダブル受賞

平成29年3月28日(火)～30日(木)長崎大学医学部で開催された第122回日本解剖学会全国学術集会において、本学医学部2～4学年次生(現3～5学年次生)が5題の学会発表を行いました。昨年度に引き続いて、一大学から学生が5題もの演題を発表したのは本学だけであり、本学医学部生の高い探求心や考察力が伺えました。

その中でも、2学年次生(現3学年次生)の花林卓哉さんらが「献体協会賞(肉眼解剖学トラベルアワード)」, 同学年次生の古屋佑夏さんが「学生セッション優秀発表賞」を受賞し、全国でも本学だけダブル受賞を達成しました。

「献体協会賞(肉眼解剖学トラベルアワード)」は、37歳以下の若手研究者、大学院生、学部生を対象としたもので、700題を超える演題の中で対象となったのはわずか4題でした。学生が受賞するのは異例のことですが、本学では2012年、2014年と過去2回受賞しており、今回が3回目となります。発表内容は、世界医学教育連盟(WFME)国際認証に向けて、学生自らの視点で基礎医学改革について提言したもので、非常に高い評価を受けました。

また、学生セッションにおいても、レベルが高い60題以上の演題が発表されましたが、その中で「優秀発表賞」の対象となったのはわずか6題でした。全国から集まった解剖学者から厳しい質問を受けましたが、発表者の古屋さんは全く動じることなく、見事な受け答えをしました。同賞は、昨年に続いて2年連続の受賞となりました。発表した学生達からは、「今回の学会で、また一歩前に進むことができた。」「初めて自分の演題を持って臨んだ学会発表で、貴重な体験ができた。これから更に成長できるように努力をしていきたい。」「試行錯誤の末に作り上げる達成感、高揚感を楽しむことができ、とても幸せな1年間になった。」などの感想が寄せられました。また、1学年次生(現2学年次生)の学生も3名参加し、学会の雰囲気を体験し、先輩たちの勇姿に大きな刺激を



学会懇親会会場にて

前列左から原公彦さん、野村彩華さん、蓬莱春日さん、横山礼佳さん、望月知美さん、加藤佑啓さん、後列左から中山幹都さん、古屋佑夏さん、中野隆教授、内藤宗和教授、花林卓哉さん、平井宗一教授(特任)、佐藤晃敏さん

受けていました。

学生達の指導に当たった解剖学講座の中野隆教授からは「普段の講義や実習、試験勉強に追われながら、更に課外活動にも積極的に取り組みつつ、休日返上で学会発表に向けて努力する学生の姿には感銘を受けました。また、発表原稿の作成など上級生が下級生を指導する光景は、清々しさを感じました。医学を目指す上で貴重な体験になったと信じます。」と感想が寄せられました。

発表演題5題

「肉眼解剖学トラベルアワード(献体協会賞)」演題

花林卓哉, 中山幹都, 古屋佑夏, 原公彦, 關栄茂, 山田崇義, 蓬莱春日, 小澤由紀, 内藤宗和, 中野隆: WFME国際認証に向けた骨学実習の提言～アウトカム基盤型実習書『骨学のすゝめ』の作成～

「学生セッション優秀発表賞」演題

古屋佑夏, 中山幹都, 安井正佐也, 大道裕介, 宮木孝昌, 中野隆: 大腿部に広範な動脈変異を認めた1例－重複大腿動脈の解剖学的・発生的考察－

その他の演題

蓬莱春日, 大道裕介, 大道美香, 矢倉富子, 横田紘季, 内藤宗和, 中野隆: アルコール性末梢神経障害モデルにおけるアルコール離脱後慢性疼痛

野村彩華, 望月知美, 大石仁, 内藤宗和, 中野隆: 腸間膜間動脈の遺残は、下腸間膜動脈欠損を代償する

中山幹都, 古屋佑夏, 安井正佐也, 大道裕介, 宮木孝昌, 中野隆: Deep Femoral Trunkの一亜型



表彰式 大会長の小路武彦教授(長崎大学)と花林さん



懇親会会場 古屋さん(左)と宮木孝昌客員教授(右)

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

リハビリテーション部

リハビリテーション部は、本院中央診療部門に属し、各診療科の医師からの依頼により、リハビリテーション科医師の処方を受け診療業務を提供しています。

中央棟3階リハビリテーションセンターを中心に診療を行っていますが、急性期の患者さんへの早期からのリハを安全に行うため、入院されている病室に向いて診療を行うことも多くあります。急性期病院である本院ではEICU、GICU、NICUなどの集中治療室を始め、患者さんの病室やベッドサイドからリハを開始しています。また、集中リハビリテーション病棟がある12階B病棟や脳卒中センターがある11階B病棟に設置された病棟リハビリテーション室も活用し、患者さんへの安全性確保や早期リハの開始が可能となりました。

リハビリテーション部のスタッフは、理学療法士30名、作業療法士13名、言語聴覚士4名、医療技術補助員、看護師、事務職員、更にリハビリテーション科医師を始めとする各診療科の医師が協働・連携して、高度かつ安全で安心できる医療の提供に努めています。診療報酬における疾患別リハビリテーション料に合わせ、リハチーム



リハビリテーション部の皆さん

を脳血管リハグループ、運動器リハグループ、廃用症候群リハグループを編成し専門性を重視した診療に取り組んでおります。

専門性の確保については、リハビリテーション科専門医、脳卒中专門医、日本整形外科学会専門医、日本理学療法士協会認定の骨関節系専門理学療法士、神経系専門理学療法士、内部障害系専門理学療法士、呼吸療法認定士、心臓リハビリテーション指導士、摂食嚥下障害看護認定看護師が適所に配置され、患者さんへ質の高いリハを提供できるよう取り組んでおります。

看護学部

病態保健学 教授・西川和裕

看護学部に着任し8年目を迎えます。病態保健学は、10年間所属した医学部の内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）から移るとき、「病態」と「保健」に関する教科を受け持つことから名付けました。

「病態」の学習は、看護対象者の疾患理解のため必要です。看護師として様々な疾患に遭遇した時、自己学習できる力を養うことが目標です。「保健」関連の疫学・保健統計は、保健師国家試験科目であると同時に看護師にとって必須の内容です。更にこの教科を通じて、科学的・論理的思考を身に着けることを目指しています。また、大学院では、臨床的判断力養成を目標とする高度実践看護師コースを担当しており「内科医の思考パターン＝医師頭？」を伝授することに力点を置いています。

私は、この地区の大学卒業後の数年間を地域病院で一般臨床を行い、その後3年間のポスドク留学を挟み、母校での実験研究センターの生活を送りました。本学では、再び臨床を中心に据え、現在も大学病院において内科診療



を続けています。それら全てが教育の種であり、少しでも本学学生に還元したいと思っています。

最後になりますが、看護学部生が無事実習を終え卒業するため、学校医としてワクチン接種などの感染症対策を行うとともに学生相談に応じています。学生の未来が輝かしいものになることを願いつつ、看護学部で働く医師として学生の支援を続けたいと思います。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、整形外科学講座の平澤敦彦助教が海外研修へ参加されましたので、ご紹介します。

平澤 敦彦

(整形外科学講座・助教)

研修課題：びまん性特発性骨増殖症 (Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis: DISH) の有病率, スウェーデンでの調査及び脊椎脊髄外科研修

研修先:ウプサラ大学病院整形外科(スウェーデン) Orthopaedics, Department of Surgical Sciences, Uppsala University Hospital

研修期間：平成28年7月27日～平成29年4月1日

私はこの度、スウェーデンのウプサラ市にあるウプサラ大学病院整形外科のSpine Sectionに約8か月間留学する機会を得ました。ウプサラ大学は1477年に創設された北欧最古の大学で、ヨーロッパの権威ある高等教育・研究機関の一つであり、これまでに15人の大学関係者(卒業生・教員等)がノーベル賞を受賞しています。ウプサラ市は、首都のストックホルムから電車で40分ほど北上した場所に位置する大学を中心に発展した街です。緯度は北海道よりも高く、冬は常に氷点下で街の中を流れる川が凍ってしまうほどです。人口は約14.5万人おり、スウェーデンで四番目に大きな街とのことですが、実際滞在した印象はあまり人の多さは感じさせない、ゆったりとした時間が流れる街でした。

私がウプサラ大学に留学することができた経緯ですが、一昨年春に当科脊椎班の若尾典充先生から、国際学会で知り合ったウプサラ大学のClaes Olerud教授が留学生を受け入れてくれるという話を頂いたことが始まりでした。スウェーデンは米国と違い、助手として手術に参加できることや英語が第二言語として通じること、そして、日本と似た高齢社会であることを知り、その医療体制の経験は今後の自分に活かせるのではないかと魅力を感じ、留学の希望を就任早々でご多忙の出家正隆教授に伝えました。当時、私は大学院3年生でしたので、学位審査通過を条件に残りの在学期間を留学に充ててもよいとのお許しを頂き、その条件クリアをモチベーションに研究・論文執筆を続けました。そして、脊椎班チーフの神谷光広先生とCorresponding Authorでもあった若尾先生からの熱い指導のおかげもあり、大学院3年時の2月には学位論文がアクセプトされ、4年生となった6月に学位審査を通過することができ、留学が実現しました。

留学時期については、Olerud教授から6～7月頃は休暇シーズンで不在の医師も多いと聞いていたので8月からとしたのですが、実際訪れると8月もまだまだ休暇シーズンで、Olerud教授にも他の担当教官や医局の秘書さんにも9月中旬まで会えませんでした。このように時間の使い方がゆっくりで、おらかな振舞いは医師だけでなく看護師や街の人々にも見受けられたのですが、それに対する不満や意見は人の尊厳を傷つけるマナー違反という意識があり、見かけることはありませんでした。このような振舞い方には当初戸惑いを感じましたが、日本人にも必要な意識かもしれません。



Spine sectionの医師達とX線カンファレンス室にて
(左から3人目がClaes Olerud教授、筆者(右から2人目))



ノーベル賞祝賀会で大隅良典先生と記念撮影
ウプサラ大学移植外科の山本慎治先生(左)と同時期に同じ整形外科に留学されていた杏林大学整形外科の大畑徹也先生(右)

研修として手術の助手をほぼ毎日務め、その内容は頸椎・腰椎変性疾患、小児側弯症、脊椎骨折、転移性脊椎腫瘍、脊椎感染症と幅広く、非常に多くの経験を積むことができました。手術の他には、Researchも行いました。内容は私の学位テーマであるDISHの有病率調査を、ウプサラ大学病院救急外来受診者を対象に行いました。この成果は今後、国際学会や論文での発表を予定しています。

また、今回の留学では海外経験だけでなく、ノーベル医学生理学賞受賞者の大隅良典先生にお会いするという貴重な機会も得ました。日本人受賞者がいた場合に限るのですが、公式な授賞式とは別に在スウェーデン日本国大使館が祝賀会を催しており、今回の留学で知り合いになったウプサラ大学移植外科の山本慎治先生からの紹介で参加しました。大隅先生は、授賞式前に行われたノーベルレクチャーで「評価の有無に依らず純粋に研究することが文化として育まれる社会を望む。」と述べられ研究者の一人として感銘を受けました。この言葉を胸に研究を続け、愛知医科大学の発展に微力ながら尽力させて頂きたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった出家教授及び整形外科医局員の皆さまには、この場をお借りして感謝申し上げます。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



伊藤 邦弘

学位授与番号 甲第475号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Inhibition of Nox1 induces apoptosis by attenuating the AKT signaling pathway in oral squamous cell carcinoma cell lines (口腔扁平上皮癌細胞株におけるNox1の阻害はAKTシグナル伝達経路を阻害し、アポトーシスを誘導する)」

signaling pathway in oral squamous cell carcinoma cell lines (口腔扁平上皮癌細胞株におけるNox1の阻害はAKTシグナル伝達経路を阻害し、アポトーシスを誘導する)」



宇梶 珠未

学位授与番号 甲第476号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Inhibition of IGF-1-Mediated Cellular Migration and Invasion by Migracin A in Ovarian Clear Cell Carcinoma Cells (明細胞卵巣がんにおけるmigracin AのIGF-1を介した細胞遊走および浸潤の抑制)」

Migracin A in Ovarian Clear Cell Carcinoma Cells (明細胞卵巣がんにおけるmigracin AのIGF-1を介した細胞遊走および浸潤の抑制)」



河南 勝久

学位授与番号 甲第477号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Effect of Denosumab Administration on Lumbar Vertebral Strength of Patients with Vertebral Bony Metastases: Preliminary Study (転移性脊椎腫瘍に対する抗RANKL抗体投与前と投与後の骨強度評価)」

Strength of Patients with Vertebral Bony Metastases: Preliminary Study (転移性脊椎腫瘍に対する抗RANKL抗体投与前と投与後の骨強度評価)」



Sidthipong Kulrawee

学位授与番号 甲第478号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Rational design, synthesis and *in vitro* evaluation of novel *exo*-methylene butyrolactone salicyloylamide as NF- κ B inhibitor (NF- κ B阻害剤exomethylene butyrolactone salicyloylamideの分子デザイン、合成と*in vitro*活性の評価)」

in vitro evaluation of novel *exo*-methylene butyrolactone salicyloylamide as NF- κ B inhibitor (NF- κ B阻害剤exomethylene butyrolactone salicyloylamideの分子デザイン、合成と*in vitro*活性の評価)」



田村 泰弘

学位授与番号 甲第479号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Pathophysiology of functional heartburn based on Rome III criteria in Japanese patients (Rome III 診断基準に基づいた日本人の機能性胸やけの病態の検討)」

Japanese patients (Rome III 診断基準に基づいた日本人の機能性胸やけの病態の検討)」



平澤 敦彦

学位授与番号 甲第480号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「The prevalence of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis in Japan - the first report of measurement by CT and review of the literature (本邦におけるびまん性特発性骨増殖症の有病率-CTを用いて調査した世界初の報告と過去の論文の再考察-)」

the first report of measurement by CT and review of the literature (本邦におけるびまん性特発性骨増殖症の有病率-CTを用いて調査した世界初の報告と過去の論文の再考察-)」



安田 吉孝

学位授与番号 甲第481号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「High oxygen modifies vasodilator effect of cysteine via enhanced oxidative stress and thromboxane production in the rat mesenteric artery (高濃度酸素は酸化ストレスとトロボキサン産生を介してシステインによるラット腸間膜動脈血管拡張を抑制する)」

oxidative stress and thromboxane production in the rat mesenteric artery (高濃度酸素は酸化ストレスとトロボキサン産生を介してシステインによるラット腸間膜動脈血管拡張を抑制する)」



山口 純治

学位授与番号 甲第482号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Association of Intestinal Microbiota with Metabolic Markers and Dietary Habits in Patients with Type 2 Diabetes (2型糖尿病患者における代謝マーカー・食習慣・腸内細菌叢の関連性)」

Dietary Habits in Patients with Type 2 Diabetes (2型糖尿病患者における代謝マーカー・食習慣・腸内細菌叢の関連性)」



山本 康博

学位授与番号 甲第483号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Intermittent local periodontal inflammation causes endothelial dysfunction of the systemic artery via increased levels of hydrogen peroxide concomitantly with overexpression of superoxide dismutase (間欠的な局所の歯周組織炎症はスーパーオキシドディスムターゼを過剰発現することで過酸化水素を産生し全身的な動脈の内皮機能障害を引き起こす)」

dysfunction of the systemic artery via increased levels of hydrogen peroxide concomitantly with overexpression of superoxide dismutase (間欠的な局所の歯周組織炎症はスーパーオキシドディスムターゼを過剰発現することで過酸化水素を産生し全身的な動脈の内皮機能障害を引き起こす)」



李 佳政

学位授与番号 甲第484号

学位授与年月日 平成29年3月4日

論文題目：「Propofol reduces liver dysfunction caused by tumor necrosis factor- α production in Kupffer cells (プロポフォールはクッパー細胞から産生された腫瘍壊死因子- α による肝機能障害を軽減させる)」

factor- α production in Kupffer cells (プロポフォールはクッパー細胞から産生された腫瘍壊死因子- α による肝機能障害を軽減させる)」

**若山 沙代里**

学位授与番号 甲第485号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「Lipopolysaccharide impairs insulin sensitivity via activation of phosphoinositide 3-kinase in adipocytes (エンドトキシンは脂肪細胞のホスファチジルイノシトール 3-キナーゼを活性化し、インスリン感受性を障害する)」

**上野 大樹**

学位授与番号 甲第486号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「Role of adiponectin and leptin in non-diabetic, non-obese patients with endometrial cancer (非糖尿病、非肥満患者の子宮体癌患者におけるアディポネクチンとレプチンの役割)」

**丸橋 佑基**

学位授与番号 甲第487号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「Morphological analyses in fragility of pili torti with Björnstad syndrome (ブオルンスタッド症候群の捻転毛における裂毛に関する形態学的解析)」

**富野 敦稔**

学位授与番号 甲第488号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「Increased PD-1 Expression and Altered T Cell Repertoire Diversity Predict Mortality in Patients with Septic Shock: A Preliminary Study (敗血症性ショック患者におけるリンパ球PD-1発現とT細胞受容体の多様性障害が予後に及ぼす影響)」

**菊池 徳昌**

学位授与番号 甲第489号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「Perceived Stress and Colorectal Cancer Incidence: The Japan Collaborative Cohort Study (ストレスと大腸癌罹患の関連研究)」

**澤田 孝之**

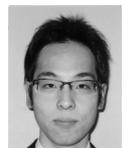
学位授与番号 甲第490号
 学位授与年月日 平成29年3月4日
 論文題目：「The influence of personality and perceived stress on the development of breast cancer: 20-year follow-up of 29,098 Japanese women (心理学的要因と乳癌罹患の関係)」

**榊原 健介**

学位授与番号 甲第491号
 学位授与年月日 平成29年2月23日
 論文題目：「Kynurenine causes vasodilation and hypotension induced by activation of KCNQ-encoded voltage-dependent K⁺ channels (キヌレニンはKCNQ電位依存性カリウムチャネルを開口し、血管拡張と低血圧を引き起こす)」

**村松 由崇**

学位授与番号 甲第492号
 学位授与年月日 平成29年2月23日
 論文題目：「Pulsed electromagnetic Field Stimulation Promotes Anti-cell Proliferative Activity in Doxorubicin-treated Mouse Osteosarcoma Cells (パルス電磁場刺激のマウス骨肉腫細胞におけるドキシソルビシンの抗腫瘍効果促進作用の検討)」

**笠置 智道**

学位授与番号 甲第493号
 学位授与年月日 平成29年3月16日
 論文題目：「Acid-base disturbances in nephrotic syndrome: analysis using the CO₂/HCO₃ method (traditional Boston model) and the physicochemical method (Stewart model) (ネフローゼ症候群の酸塩基平衡異常：CO₂/HCO₃法(ボストンモデル)と物理化学法(スチュワートモデル)による解析)」

**河井 啓**

学位授与番号 甲第494号
 学位授与年月日 平成29年3月16日
 論文題目：「*In vitro* efficacy of liposomal amphotericin B, micafungin and fluconazole against non-*albicans* *Candida* species biofilms (Non-*albicans*カンジダ属によるバイオフィルムに対するアムホテリシンBリポソーム製剤、ミカファンギンおよびフルコナゾールの*in vitro*効果)」

**白石 洋輔**

学位授与番号 甲第495号
 学位授与年月日 平成29年3月16日
 論文題目：「Simultaneous quantification of batrachotoxin and epibatidine in plasma by ultra-performance liquid chromatography / tandem mass spectrometry (UPLC-MS-MSを用いた血漿中batrachotoxinおよびepibatidine濃度の同時定量)」

**伊藤 剛**

学位授与番号 甲第496号
 学位授与年月日 平成29年3月16日
 論文題目：「Is a fourth-line antiepileptic drug regimen truly ineffective for all types of epilepsy? Reappraisal of pharmaco-resistance as related to epilepsy type in adult patients (抗てんかん薬の第四レジメンはすべてのてんかんに対して本当に無効なのか？薬物抵抗性の成人てんかん患者で再検討を行った)」



櫻井 慎一郎

学位授与番号 乙第381号
学位授与年月日 平成29年2月9日
論文題目：「Influence of plaque characteristics on fractional flow reserve

for coronary lesions with intermediate to obstructive stenosis: insights from integrated-backscatter intravascular ultrasound analysis (冠動脈のプラーク性状が冠血流予備量比 (FFR) に与える影響についての検討)」



篠田 貢一

学位授与番号 乙第382号
学位授与年月日 平成29年3月16日
論文題目：「Structural Comparison between the Right and Left Atrial Appendages Using Multidetector Computed Tomography (多検出器型CT装置を用いた右心耳・左心耳の構造比較)」



野畑 宏信

学位授与番号 乙第383号
学位授与年月日 平成29年3月16日
論文題目：「Hypocalcemia immediately after renal transplantation (腎移植直後の低カルシウム血症)」

低カルシウム血症)」



山本 高也

学位授与番号 乙第384号
学位授与年月日 平成29年4月13日
論文題目：「Glucagon-like peptide-1 analogue prevents nonalcoholic steatohepatitis in non-obese mice (GLP-1アナログが、非肥満マウスにおいて非アルコール性脂肪肝炎を抑制する)」

る)」

◆大学院看護学研究科



戸谷 信雄

学位授与番号 第89号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「造血幹細胞移植患者へのケアにおける看護師の体験-感情に焦点をあてて-」



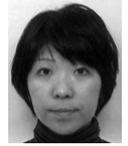
山浦 幸枝

学位授与番号 第90号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「重症患者家族のニーズの特徴とニーズに対するケア実践に関する看護師の認識-救急外来初期診療と入院重症集中治療の比較より-」



池部 百恵

学位授与番号 第91号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「関節リウマチ患者を支えるリウマチケア看護師の活動～チーム医療における役割と専門性の検討～」



岡本 悦子

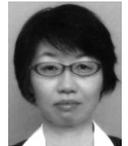
学位授与番号 第92号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「チーム医療における看護師の多職種のエラーを指摘する態度に影響を与

える要因」



高林 拓也

学位授与番号 第93号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「看護を基盤とした診療看護師(NP)による全人的アプローチの探索」



竹村 和子

学位授与番号 第94号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「在日ビルマ(ミャンマー)難民の健康状態の実態と関連要因の検討」



谷口 純平

学位授与番号 第95号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「救急病棟に勤務する熟達看護師がせん妄の発症を予防するためのケアの特徴に関する研究」



辻坂 絹代

学位授与番号 第96号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「集中治療におけるせん妄ケアに関する文献研究」



林 さえ子

学位授与番号 第97号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「前立腺がん治療に伴う性功能障害に対する看護介入状況と介入の促進・阻害要因」



森 幸弘

学位授与番号 第98号
学位授与年月日 平成29年3月4日
論文題目：「看護学生のエイジズムと、生活背景・老年看護学臨地実習における体験との関連」

研究助成等採択者

○一般社団法人 J A 共済総合研究所
平成29年度 J A 共済交通事故医療研究助成
●氏名 岩山秀之 (小児科学講座・講師)
研究題目 小児の交通事故による頭部外傷後の内分
泌疾患の合併症に関する研究
助成金額 1,000,000円

研究題目 過冷却状態において変動磁場印加が生体・
臓器にもたらす作用メカニズムの解明
助成金額 1,000,000円

○公益財団法人磁気健康科学研究振興財団
平成28年度研究助成
●氏名 内藤宗和 (解剖学講座・教授)

○東日本高速道路株式会社
NEXCO東日本技術研究助成
●氏名 内藤宗和 (解剖学講座・教授)
研究題目 高齢者ドライバーの平衡感覚を改善するサ
イバネティックトレーニングシステムの開発
助成金額 2,940,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第22回日本集団災害医学会総会・学術集会	平成29年2月13日(月)～15日(水)	中川 隆
・日本耳鼻咽喉科学会第168回東海地方部会連合講演会	平成29年3月5日(日)	植田 広海
・日本区域麻酔学会第4回学術集会	平成29年4月14日(金)・15日(土)	藤原 祥裕

第22回日本集団災害医学会総会・学術集会

平成29年2月13日(月)～15日(水)名古屋国際会議場において、第22回日本集団災害医学会総会・学術集会を「これからの減災・克災の姿を求めて」をテーマに開催しました。

平成28年4月に起こった熊本地震の記憶が新しい中、南海トラフ地震への確実な備えが求められる背景もあり、過去最高の約2,400名の参加がありました。

大村秀章愛知県知事、三宅養三理事長らをお迎えした開会式の後、市民公開講座を兼ねた会長講演、続いて行われた特別講演では、歌手のさだまさし氏の災害への熱い語りや歌で普段の学会オープニングとは趣旨が異なったものの、市民の方々に災害医療を意識してもらおう大変

災害医療研究センター・教授 中川 隆
良い機会を得ました。

もう一つの特別講演では、登山家の野口健氏の熊本地震における避難者向けテント村開設に至る苦労と運営の具体的な課題が披露され、学会参加者には非常に有益な講演となりました。

南海トラフ地震関連のシンポジウムでは、東海地域の甚大な被害想定に正面から向き合い、各医療機関は現時点の対応策の抜本的見直しが喫緊の課題であるとの結論に至り、後日新聞記事等のメディアでも取り上げられました。

盛況のうちに無事に終えることができ、本学関係各位に心より深謝致します。

日本耳鼻咽喉科学会 第168回東海地方部会連合講演会

平成29年3月5日(日)大学本館たちばなホールにおいて、日本耳鼻咽喉科学会第168回東海地方部会連合講演会を耳鼻咽喉科学講座の主催で開催しました。

本会は、東海三県の医学部がある大学及び県内の四つの主要な病院の持ち回りで年4回開催されています。通常は、一般講演のみの学会であるが、平成28年度から耳鼻咽喉科専門医の更新制度の変更に伴い、耳鼻咽喉科領域講習の受講が必須となったため、今回はこの領域講習をプログラムに取り入れました。

耳鼻咽喉科学講座・教授 植田 広海

一般演題は、本講座を含めて26題の発表がありました。参加者は、東海三県の大学や病院の耳鼻咽喉科勤務医及び開業医223名で活発な討論がなされました。また、領域講習として本講座の谷川徹准教授による「耳鼻咽喉科におけるアンチエイジング」の講演が行われ好評を博し、大変有意義な学会となり、成功裏に終えることができました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり、皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

日本区域麻酔学会第4回学術集会

平成29年4月14日(金)・15日(土)ウインクあいちにおいて、日本区域麻酔学会第4回学術集会を開催しました。本学会は、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック等の区域麻酔技術に関する研究・教育を目的とした学会であり、昨今の超音波ガイド下神経ブロック技術の隆起に支えられて急速にその規模を拡大しています。

今回、招講演の講師としてスタンフォード大学Brendan Carvalho教授、メルボルン大学Peter Hebbard先生、クリーブランドクリニックAlparslan Turan教授にご講演を賜りました。その他にも、シンポジウム2題、教育講

麻酔科学講座・教授 藤原 祥裕
演6題、Pro and Con デイバート3題、超音波ガイド下神経ブロックハンズオンワークショップ4題、ランチョンセミナー6題を設け、各分野の専門家にご講演、指導・教育をお願いしました。一般演題には約150題のご応募を頂き、全てe-posterでの発表としました。名古屋という交通の便が良い都市での開催もあり、参加者総数は約800名となり盛会裡に会を終えることができました。

末筆ながら、本学術集会の開催に当たり、多大なるご支援を賜りました一般財団法人愛知医科大学愛恵会の皆さまに心より御礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

大学学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、各学部の目的が定められました。また、医学情報の電子化に伴う大学としての課題解決を図るため、「医学情報センター（図書館）」と「情報処理センター」の統合・機構改革が行われ、「総合学術情報センター」が設置され、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

（新規制定11件、一部改正13件、廃止17件）

施行日はいずれも平成29年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学総合学術情報センター規程
- ・愛知医科大学総合学術情報センター運営委員会規程
- ・総合学術情報センター（図書館部門）における図書館の複写等料金について
- ・総合学術情報センター（図書館部門）寄贈図書評価について
- ・総合学術情報センター（情報基盤部門）電子計算機等利用に係る経費負担について
- ・愛知医科大学総合学術情報センター（図書館部門）利用規程
- ・愛知医科大学総合学術情報センター（図書館部門）図書管理規程
- ・業績集の掲載基準について
- ・愛知医科大学総合学術情報センター（情報基盤部門）利用規程
- ・愛知医科大学電子メール利用要綱
- ・総合学術情報センター及び各部門の英文名称について（一部改正及び廃止となった規則については、掲載省略）

愛知医科大学学長規程の一部改正

本学におけるガバナンス改革の一環として、愛知医科大学学長規程の一部が改正され、学長候補者選考の基準及び時期並びに候補適任者の選考方法等が整備されました。

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学学長候補者選考規程

【廃止】

- ・愛知医科大学学長候補者選考規程（旧）
- ・学長候補者講演会について

病院規程の一部改正

愛知医科大学病院規程の一部が改正され、薬剤部長の人選について、薬剤師である者の中から部長を選任することができるようになりました。（原則としては薬剤部の教授をもって充てる）

施行日は平成29年4月1日

また、新たな中央診療部として、「救急診療部」、「緩和ケアセンター」及び「脳血管内治療センター」が設置されました。

施行日は平成29年3月1日（救急診療部）、同4月1日（緩和ケアセンター、脳血管内治療センター）

また、これらの改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、救急診療部関係は平成29年3月1日、緩和ケアセンター及び脳血管内治療センター関係は平成29年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院救急診療部規程
- ・愛知医科大学病院救急診療部運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院緩和ケアセンター規程
- ・愛知医科大学病院緩和ケアセンター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院脳血管内治療センター規程
- ・愛知医科大学病院脳血管内治療センター運営委員会規程

保健管理センター規程の制定等

保健管理に関する専門的業務及び保健管理についての専門的調査及び研究を行い、学生及び職員の健康教育及び健康の保持増進を図るため、「愛知医科大学保健管理センター」が設置されたことに伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学保健管理センター規程
- ・愛知医科大学保健管理センター運営委員会規程

看護学部附属看護実践研究センター規程の一部改正等

看護学部附属看護実践研究センターで開講していた「認定看護師教育課程」の閉講に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センターの部門の組織等に関する規程

【廃止】

- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程の入学検定料、入学金及び授業料の額について
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程設置規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター教員会規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター入学試験委員会規程
- ・認定看護師教育課程学生の懲戒に関する規程
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程細則
- ・愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程学生の懲戒に関する規程学籍番号等について

科学研究費助成事業取扱規程の一部改正

本学における科学研究費助成事業応募資格者を明確にするとともに、研究実施における必要な条件等を明確にするために、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【新規制定】

- ・科学研究費助成事業に係る応募資格付与条件について

【一部改正】

- ・愛知医科大学科学研究費助成事業取扱規程

医師国家試験対策強化委員会規程の制定等

医師国家試験対策を強化し、重点的に実施することを目的として、「愛知医科大学医師国家試験対策強化委員会」が設置されたことに伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学医師国家試験対策強化委員会規程

【一部改正】

- ・医学教育センターの部門の組織等について

医学部倫理委員会規程の一部改正等

日本医療研究開発機構（AMED）による倫理審査機関の認証制度の開始に対応するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部倫理委員会規程
- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院倫理委員会規程
- ・愛知医科大学病院倫理審査実施規程

卒後歯科臨床研修管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院卒後歯科臨床研修管理委員会規程の一部が改正され、「臨床研修協力施設の研修実施責任者」,

「外部の歯科医師」及び「看護師」が委員として明記されました。

施行日は平成29年4月1日

事務組織規程の一部改正等

「総合学術情報センター」及び「保健管理センター」の設置並びに「医学情報センター（図書館）」、「情報処理センター」及び「認定看護師教育課程」の廃止に伴い、次の関係規則が整備され、関係事務組織及び事務分掌等が整備されました。

施行日はいずれも平成29年4月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について
- ・人事・厚生室事務分掌について
- ・総務部事務分掌について
- ・看護学部事務部事務分掌について
- ・学校法人愛知医科大学文書規程
- ・学校法人愛知医科大学事務決裁規程
- ・学校法人愛知医科大学公印規程

早期退職優遇措置に関する規程の一部改正

早期退職優遇措置に関する規程の一部が改正され、早期退職優遇措置の運用方法が明確化されました。

施行日は平成29年4月1日

定年退職後に雇用する教員の分限等について

「定年退職後に雇用する教員の分限等について」が理事長裁定され、定年退職後であっても、余人をもって代えがたい能力を有し、本学での活躍が期待できる教員を雇用する制度が整備されました。

裁定日は平成29年4月1日

高圧ガス製造廃止に伴う関係規則の廃止

運動療育センター熱源機器更新に伴い、本学に一般高圧ガス保安規則で対象となる高圧ガス製造装置がなくなったため、次の関係規則が廃止されました。

施行日はいずれも平成29年3月6日

【廃止】

- ・愛知医科大学非ユニット型高圧ガス危害予防規程
- ・愛知医科大学ユニット型高圧ガス危害予防規程
- ・愛知医科大学高圧ガス保安教育計画

「教育・研究最前線」

医療人としての生涯教育の礎を培う基礎科学部門のご紹介 ～化学・生物学～

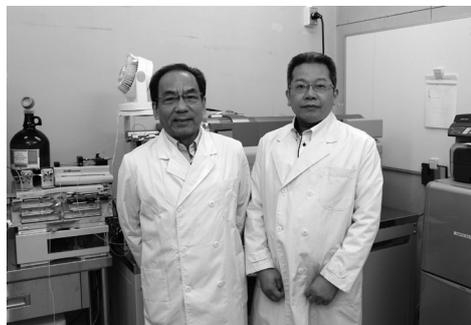
生命現象を分子レベルで深く理解するための基盤となる化学

化学 教授 小島 貞男

化学教室は、医学部では「医用化学」、「化学実験」、「自然科学演習（化学）」「初年次医科学セミナー」、「アカデミックリテラシー」の講義・実験を担当しており、看護学部では「化学」の講義を担当しています。物理化学や有機化学は、生命現象を分子レベルで深く理解するための基盤となる学問となるため、これらの基本原理や諸概念の理解が進むよう、医療のトピックスも交えながら授業を進めています。

研究においては、私は環境化学、放射化学を専門としており、環境中の有害物質の動態とその発生源に関する研究を行っています。特に放射性物質に関する研究は長期にわたり、チェルノブイリ原発事故で放出された放射性ヨウ素の分析、東海村核燃料臨界事故の漏えい中性子による放射化物の分析、福島原発事故により放出された放射性物質の種類と量の分析を行い、これらの事故の危険性評価の基礎となる重要なデータを提出しています。このような実績を踏まえ、総合医学研究機構・核医学実験部門の部門長、放射線取扱主任者を兼務しています。

有信准教授の専門は質量分析であり、ガスクロマトグラフ質量分析計（GC/MS）を用いて、環境指標となるバイオマーカーの解析を行っています。地球上で過去に



小島教授（左）と有信准教授（右）

何度も繰り返し発生している生物大量絶滅期における地球環境変動の解明のため、当時の堆積岩に残されたバイオマーカーを質量分析計で詳細に解析しています。また、本学への赴任をきっかけに、高速液体クロマトグラフ/タンデム質量分析計（LC/MS-MS）を用いた血中微量薬毒物の超迅速・自動分析法の開発にも積極的に携わっています。特に前処理のオンライン化とパクフラッシュカラムスイッチング法の開発に取り組んでおり、分析時間の大幅な短縮化と高感度分析を目指して研究を行っています。

研究あつての教育 ー分子細胞生物学と神経化学を基盤としてー

生物学 教授 武内 恒成

生物学教室は、私武内が赴任した3年前、更に松下准教授の着任を経てリニューアルし、やっと走り始めた状況です。研究では、前任地である新潟大学医学部で開始した細胞の周囲にある糖鎖構造の遺伝子改変マウスから、中枢神経系・脊髄損傷の再生へのコンセプトをささやかながら示しました（Nature Comm.2013）。同時に、私が古くから扱ってきた神経細胞の接着機構が、神経細胞の移動や極性（方向）の決定に重要であることを、名古屋大学医学部の解剖学や神経薬理と共同にて着任後も進めて参りました（Nature Neurosci.2013, Neuron 2014）。現在、この遺伝子改変に加え、近年劇的に進歩するゲノム編集技術を用いて詳細なメカニズム解析を進めつつあります。また、治療応用の観点から、神経再生に向けてのドラッグスクリーニングとその基礎研究、更にはバイオマテリアルを用いた治療への応用展開などを、AMED（日本医療研究開発機構）と科研費・新学術領域や三菱財団を始めとする多くの民間のご支援も頂きながら教室にて開始しています。

教育においては、医学部の1学年次生講義「細胞生物学」、「行動科学」の他、2学年次生講義「分子発生学」などを中心に、大学院では細胞生物学の担当をしております。担当科目の総時間数は、初年次カリキュラムの中で最も多いのですが、その責務も感じつつ研究と教育の



研究室の仲間と（武内教授（前列右から2人目）、松下准教授（前列左から2人目））

両輪を何とか回すべく努力いたしております。

大学である以上は、教育と研究は表裏一体であると考えます。また、学問体系も大きく変わりつつあるなか、ここ医学部で旧態依然とした生物学を教える気はありません。我々が基盤とする生物物理学・分子細胞生物学・神経科学などは、化学・物理学を包括して劇的に進展している学問体系です。学生に医学への興味を持ってもらいつつ意味のある教育を、また微力ながら本学の将来への一端を担えるよう努めて参りたいと思います。